

団体・公演紹介

(2020年3月8日現在)

(公演の新聞・雑誌批評も採録)

Shakujii Ballet Academy

一般社団法人石神井バレエ・アカデミー

〒177-0041 東京都練馬区石神井町2丁目1番2号

電話 03-3996-9041 FAX 03-3904-1723

E-mail shakujii.ballet@gmail.com

ホームページ <https://www.shakujii-ballet.com/>

故高円宮憲仁親王殿下 公演のご鑑賞



故高円宮憲仁親王が 2002 年 10 月 7 日の公演にご来臨くださいました。

公演フライヤー

吉田 都 氏 出演公演 (2014年、
2017年、2019年) から

2017年公演

(公財) 練馬区文化振興協会 舞台芸術支援事業

石神井バレエ・アカデミー公演

クラシックバレエへ

バロックダンスから

**バレエ
ラビリンス**
Ballet labyrinth



吉田都: 特別出演
『眠れる森の美女』第3幕

2014年7月5日(土) 開演6時 開場5時30分
練馬文化センター・大ホール

チケット取扱い 販売: 3月10日(月)から
Confetti 0120-240-540 (平日10-18時)
http://www.confetti-web.com

◆チケット料金
全席指定: S席6,000円 A席5,000円(税込)
練馬文化センターチケットカウンター (※ 販売のみ 4/15日から)

2014年公演

Shakujii Ballet Academy



吉田 都

トリプル・ビル

Triple Bill

パ・ド・カトル 一枚の絵 四季
音楽: プーニ 原振付: ドーリン 音楽: ピアソラ 振付: 山崎敬子 音楽: ヴェルディ 振付: 山崎敬子

2017年 7/4(火) 18:30開演

文京シビックホール
大ホール
(文京区春日1-16-21)

石神井バレエ・アカデミー 公演

バレリーナ 吉田 都からのメッセージ



高岸 直樹
秋元 東臣 (東京バレエ団)
浅田 良和 (シニアフェリスエスタジオ)
池本 祥真 (東京バレエ団)

米沢 唯 (新国立劇場バレエ団)
沖 香葉子 (東京バレエ団)
峰岸 千晶 (NBAバレエ団)

吉田 都

石井 日奈子 (東京シテイルバレエ団) 野久保 奈央 (NBAバレエ団) 山口 麗子 安藤 貴絵 佐藤 さやか 児玉 海夢 泉 有香 相澤 圭

2019年 1/25(金) 19:00開演

文京シビックホール
大ホール
(文京区春日1-16-21)

2019年公演

目次

故高円宮憲仁親王殿下 公演のご鑑賞	1
公演フライヤー	2
石神井バレエ・アカデミーの紹介	5
法人代表理事プロフィール	8
推薦文	10
自主主催公演	11
2002 年公演	11
2004 年公演	13
2006 年公演	14
2007 年公演	16
2009 年公演	18
2010 年公演	19
2012 年公演	21
2014 年公演	26
2017 年公演	30
2019 年公演	50
埼玉県羽生市立三田ヶ谷小学校 学校公演	58
茨城県つくば市立竹園東小学校 学校公演	59
依頼公演	60

2016年：飛騨市文化交流センター指定管理者NPO法人ひだ文化村..... 60

石神井バレエ・アカデミーの紹介

石神井バレエ・アカデミーとは

私たちは、外崎芳昭と山崎敬子が 1982 年に創立したバレエの教育活動、普及活動、プロフェッショナルのダンサーによる公演活動を行う団体です。外崎芳昭の個人事業として始め、2020 年 2 月に一般社団法人へと組織を改めました。

《教育活動》

創立以来、幅広い方々を対象にしてバレエの教育を行っています。幼児から成人までのアマチュアへの教育に加えて、プロフェッショナルのバレエ・ダンサーの育成も行っております。私どもは、クラシックバレエを活動の中心に据えつつ、バロックダンスの活動も取り入れております。この点は、他のバレエの団体にはない私たちの特色です。バロックダンスは、クラシックバレエの源となる舞踊です。17 世紀フランスで確立した王侯貴族と職業ダンサーが踊っていた舞踊です。このバロックダンスが後世のクラシックバレエとつながっていきました。バレエの歴史を大切に、これを現代に活かす事を見据えて活動を私たちは行っています。

《普及活動》

教室でのバレエ教育に加え、外部の子供たちにバレエの面白さを伝える活動にも力を入れています。2011 年に地域でのバレエ普及を目的に「石神井クラシックバレエ普及会」という内部組織を立ち上げました。練馬区教育委員会からの委託を受けて講座「遊遊スクール」を区立の施設で開催しています。これはバレエに触れたことない子どもたちや保護者を対象にして、バレエの体験レッスンを提供するものです。

《プロフェッショナルダンサーによる公演活動》

2002 年より、当団体のプロフェッショナルのダンサーと客演ダンサーの出演の公演を開催しています。プロフェッショナルのダンサーへの活動の場の提供がひとつの重要な目的です。ダンサーにとって、自己の技術と芸術性を研鑽する場として公演への出演が不可欠なのです。公演活動は、ダンサーたちがさらに質の高い舞踊を観客に提供してゆくための研鑽の機会であると同時に、指導する生徒たちへの教育内容の向上にも直結しています。

《学校公演活動》

2013 年より、文化庁が企画する「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（派遣事業）」に参加し、学校に訪問して公演を行っております。バレエを鑑賞した経験のない子どもたちに、観て知って楽しんでもらう公演を提供しています。バレエの普及活動の一環と捉えています。

団体沿革

1982 年 石神井バレエ・アカデミー創立。

2002 年 プロフェッショナルのダンサーたちの出演による公演活動を開始する

(2002 年第 1 回、2004 年第 2 回、2006 年第 3 回、2007 年第 4 回、2009 年第 5 回、2010 年第 6 回、2012 年第 7 回、2014 年第 8 回公演、2017 年第 9 回公演、2019 年第 10

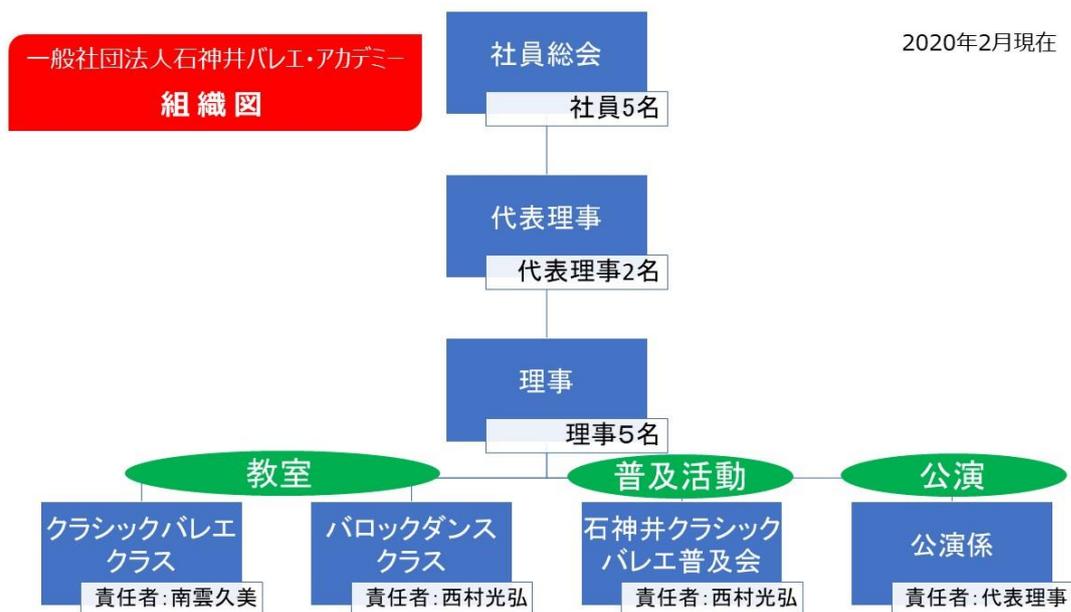
回公演)

- 2011年 内部組織「石神井クラシックバレエ普及会」を立ち上げ、練馬区教育委員会から委託をうけ
子供と保護者向けの講座「遊遊スクール」を区立の施設で行う活動を開始する。
- 2013年 文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（派遣事業）」による学校公演活動を開始す
る。
- 2020年 運営形態を外崎芳昭による個人事業から一般社団法人へと改める。

法人・代表理事&理事

代表理事	外崎 芳昭 外崎 敬子
理事	外崎 芳昭 外崎 敬子 西村 光弘 西村 文孝 南雲 久美

組織図



連絡先

一般社団法人石神井バレエ・アカデミー
〒177-0041 東京都練馬区石神井町2丁目1番2号
電話 03-3996-9041 FAX 03-3904-1723
E-mail shakujii.ballet@gmail.com



法人代表理事プロフィール

外崎 芳昭



役職	一般社団法人石神井バレエ・アカデミー（専門分野）舞踊家・舞踊講師 代表理事	
経歴	年	職歴・芸術団体所属歴・主な芸術活動歴
	1957年	松山バレエ団入団
	1958年	松山バレエ団第1回訪中公演参加『白毛女』『バフチサライの泉』に出演
	1966年	北京バレエ団へ留学
	1978年～1979年	文化庁在外研修員として留学（ニューヨーク、コペンハーゲン、ロンドン）
	1983年	『エルガー・スイート』を振付（日本バレエ協会主催）
	1983年	松山バレエ団創立35周年記念公演“ヌレエフと松山バレエ団”『白鳥の湖』（ロットバルト役）
		『ジゼル』（ヒラリオン役）
	1985年	松山バレエ団のヌレエフ・フェスティバル（ロンドン）での公演に出演
		松山バレエ団のギリシャ公演に出演
	1986年	松山バレエ団におけるヌレエフ振付『ドン・キホーテ』に出演（ドン・キホーテ役）
	1990年	松山バレエ団のエジンバラ・フェスティバル（イギリス）参加公演に出演
	1992年	松山バレエ団のニューヨーク&ワシントン公演に出演
	1994年	松山バレエ団を退団
1994年以降	石神井バレエ・アカデミーを中心に、各地のバレエスタジオの指導に専念する	
受賞歴	年	受賞歴等
	1987年	橘秋子助演優秀賞を受賞
	2008年	日本バレエ協会舞踊文化功労賞を受賞



山崎 敬子 (外崎 敬子)

役職	一般社団法人石神井バレエ・アカデミー (専門分野) 舞踊振付家・舞踊講師 代表理事 / 公演・芸術監督	
経歴	年	職歴・芸術団体所属歴・主な芸術活動歴
	1964年	松山バレエ団訪中公演に出演
	1965年	跡見学園短期大学卒業後松山バレエ団に入団
	1965年以降	松山バレエ団の全公演に出演
	1970年～1991年	松山バレエ団訪中公演5回に出演、そのほか、中国で3回にわたり研修を受ける。
	1985年	松山バレエ団のヌレエフ・フェスティバルでの公演(ロンドン)に出演
	1990年	松山バレエ団のエジンバラ・フェスティバル(イギリス)参加公演に出演
	1991年12月～1992年2月	文化庁在外特別研修員として海外研修(ニューヨーク、ロンドン)
	1992年	松山バレエ団のニューヨーク&ワシントン公演に出演
	1994年	松山バレエ団を退団
	1994年から現在	石神井バレエ・アカデミーを中心に、各地のバレエスタジオの指導に専念する
	2002年	石神井バレエ・アカデミー公演『一枚の絵』『四季』を演出・振付
	2004年	石神井バレエ・アカデミー公演『くるみ割り人形』を演出・振付
	2006年	石神井バレエ・アカデミー公演『コッペリア』を演出・振付
	2007年	石神井バレエ・アカデミー公演『MICHINOKU』を演出・振付
2009年	石神井バレエ・アカデミー公演『ドン・キホーテ』『シルヴィア』『ラ・シルフィード』を演出・振付	
2012年	石神井バレエ・アカデミー30周年記念公演『バレエ・ラビリンス』を演出・振付	
受賞歴	年	受賞歴等
	2013年	日本バレエ協会舞踊文化功労賞を受賞

推薦文

外崎さんと山崎さんのこと

舞踊評論家 藤井修治氏

外崎芳昭さんと山崎敬子さんは公私ともに最高のお似合いのご夫婦だといえます。

兩人とも松山バレエ団育ちで大活躍していた。第二次大戦後、やっと自由になったわが日本に、貝谷八百子、谷桃子、松山樹子が三代バレリーナとして各自にバレエ団を持って活動し、日本のバレエ団の発展を中心に君臨していた。そのころ、松山バレエ団で二人が会って共感したのだろう。

外崎さんは若くして松山バレエ団に入り、技術的にも精神的にも早急に成長を遂げて多くの舞台を踏んでいる。その間、松山樹子さんのパートナーとして人気を博していた石田種生さんが突然脱退し、谷桃子バレエ団から脱退した有馬五郎さんらと組んで東京シティバレエ団を創立している。外崎さんは石田さんの後を継いで松山樹子さんと組んで多くの名作、創作をものにして実力を貯えている。彼は年齢を重ねるうちに主役だけではなくロットバルトやドン・キホーテなどの巾広の役を踊るようになり、古典バレエの巾広さ、高さ、深さを身につけている。彼は 1994 年に松山バレエ団を退団しており、山崎さんとともに「石神井バレエ・アカデミー」を率いて、古典と創作の両方を作り続けている。

山崎敬子さんは松山バレエ学園から松山バレエ団に入り、早くからソリストとして数多くの作品に出演、多彩な役柄をこなしている。松山バレエ団の海外公演では、バレエミストレスとして大忙しの経験もしている。現在「石神井バレエ・アカデミー」を主宰して、古典の名作だけではなく、創作に並々ならぬ意欲を見せている。東北地方の民謡舞踊にもとづく“MICHINOKU”など記念碑的作品も少なくなく、発想の豊かさは印象的である。

バレエの舞台は1人では上演できない。考えを同じくした二人は、松山バレエ団で多種多彩の作品を経験した上に自分達の組織を考え直し、様々なジャンルの人々とも協力して、舞台を創作しているのである。外崎さん、山崎さんは、現在まで総合芸術としてのバレエの創作を経て、こういう仕事の大切さだけではなく大変なことも知っている。二人はいつの間にかリーダーシップを身につけており、大きなバレエを上演するため、多くの人々と仲良く協力して順調に仕事を進めるようになっている。

そして、なによりも二人の長所になっているのは、組織の頂点にいながらも上からの目線ではなく皆と同じ高さの視点を保っていることである。役所とか会社では、役所の上下の順位がはっきりしすぎていて、上位の人はつい自分が正しいと思い込んでしまい、つい大きい態度を取ることで間違ってしまうことがある。しかし、現代はこういうことは好ましいことではなくなっている。外崎さん山崎さんは、バレエを作るのにみなが対等と考えているようである。それがいい結果をもたらしているのではないだろうか。これは親しみを与えるだけではなく、尊敬を集めることにもなっているのである。

自主主催公演

プロフェッショナルダンサー出演の自主公演の記録

2002 年公演

日時：2002 年 10 月 7 日（月）18：00 開場、18：30 開演

会場：練馬文化センター・小ホール

振付・演出：山崎敬子

スタッフ：（舞台監督）菅野卓志、（照明デザイン）古田毅志 [ベストクルー]、（音楽編集）近藤徹志、
（音響操作）神前昭彦、（舞台装置）アステム、（衣裳）鈴木恵似子、友沢貞子、チャコット、（株）
バレリーナ

制作：外崎芳昭

プログラム

『四季』、『一枚の絵』、『フォー・ミカー優しさ・元気・寛大・快活・勇気・知恵をあなたに』、『ナイチンゲール』、『ジャズ・シンフォニー』（全作品創作初演）

出演

久米由利枝 田口晶子 田中裕子 古川明子 志村茜 山口愛 南雲久美 今井結子 山口麗子
佐藤麻弥 山口花
貞松正一郎 三浦敏幸 中村一哉 窪田弘樹 松島勇気 アレクサンダー・ミシューチン
マキシム・グージェレフ 福原大介

● 「演出・振付」の言葉：山崎敬子

ある日、ぶらりと立ち寄ったオルセー美術館。

そこで一枚の絵に出会いました。そこに描かれている人物達それぞれが自らの夢に向かって語り合っている姿、それは一人ひとりの人生が描かれている様でした…。

あれから 10 年、いつも心の片すみにあった絵が動き出しました。

（ここに描かれている人々は、バジール、モネ、ルノワール、シスレー、マネ、ゴッホ、そしてピアニストのエドモンド・メートルで実在の人物です。）

今日の舞台を第一歩として、いろいろな創作にチャレンジしてゆきたいと考えております。

今後とも皆様の御支援を心よりお願い申し上げます。



フレデリック・バジール作
『バジールのアトリエ、ラ・コンダミヌ通り』 1870年

● 舞台写真



演目『一枚の絵』から

演目『四季』より



この公演に故高円宮親王殿下下がご来臨くださり、出演者一同に励ましの御言葉を下さいました。

2004 年公演

日時：2004 年 11 月 14 日（日）17：30 開場、18：00 開演

会場：練馬文化センター・小ホール

振付・演出：山崎敬子

スタッフ：(舞台監督) 小林邦彦 (照明デザイン) 早瀬雅春[ベストクルー] (舞台装置) アステム (音楽制作) 近藤徹志 (衣装制作) 鈴木恵似子 友沢貞子 (小道具) 田口晶子

制作：外崎芳昭

プログラム

チャイコフスキー作曲 イワノフ原振付 『くるみ割り人形』全幕

出演

山口愛 古川明子 福原大介 佐藤崇有貴

外崎芳昭 佐藤良寛

大久保真貴子 山村花 今井結子 田之下千穂 三浦敏幸 村山亮 富川直樹 近藤徹志

久米百合枝 田口晶子 田中裕子 南雲久美 山口麗子 中村亜沙美 大川夏季 方ひとみ ほか

● 公演に寄せて（振付家の言葉）：山崎敬子

本日は、石神井バレエ・アカデミー第2回公演「くるみ割り人形」にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

例年にない暑い夏、台風の多い秋をようやく通り過ぎ、いよいよクリスマスシーズンの到来です。その先陣を切った石神井バレエ・アカデミー版「くるみ割り人形」をお楽しみいただきたいと思います。

美しさの本質を見抜き、真の強さ・優しさを求めるクララの心。クリスマス一夜、クララの夢を再現してみました。

● 舞台写真

『くるみ割り人形』



2006 年公演

石神井バレエ・アカデミー創立 25 周年記念公演

日時：2006 年 7 月 17 日（月・祝）17：00 開演

会場：練馬文化センター・大ホール

演出・振付：山崎敬子

スタッフ：（舞台監督）西澤昭彦[遊カンパニー]（照明デザイン）早瀬雅春 [ベストクルー]

（舞台装置）NBA バレエ団 遊カンパニー（音楽編集）近藤徹志（音響操作）相馬保之

（衣装製作）鈴木恵似子 [グルロアール] 友沢貞子

（小道具・プログラムレイアウト）田口晶子

制作：外崎芳昭

プログラム

ドリーブ作曲、サン・レオン原振付『コッペリア』全幕

出演

（スワニルダ）山口麗子（フランツ）貞松正一郎[貞松・浜田バレエ団]（コッペリウス）中村一哉

（アンナ）久米百合枝（マグダレナ）田中裕子（モニカ）古川明子（ヨアンナ）南雲久美

（カロリナ）大川夏季（ユスティナ）大塚友香（シャルダッシュ・ソリスト）田口晶子

（時の踊り・ソリスト）島津萌由

（市長）佐藤良寛（シャルダッシュ・ソリスト）三浦敏幸（マルツィン）村山亮

（パヴェル）近藤徹志（トマシ）福原大介[スターダンサーズ・バレエ団]（クリストフ）武藤典華[貞松・浜田バレエ団]（ラファエル）玉利智裕（カミル）青木淳一[チャイコフスキー記念東京バレエ団]ほか

● 藤井修治氏（舞踊評論家） 公演に寄せて【「コッペリア」のことなど】

[...] 今回は石神井バレエ・アカデミーの創立 25 周年を記念して「コッペリア」が選ばれました。外崎さん山崎さん御夫妻は長い間、松山バレエ団で活躍した間にたびたび「コッペリア」の舞台を踏んでいます。僕が NHK のテレビディレクターだった頃、松山バレエ団の出演で「コッペリア」の終幕を放送したことがあります。まだ若い外崎さんがフランツでベテラン今村昌子さんがスワニルダでした。まだまだ若い山崎さんはもっと若い役だったかな？お二人はいろいろな舞踊経験を経て自分の世界を作ってきたのです。その間に「コッペリア」も自分だったらこうしたいなどと考えたに違いありません。今回もいくつか面白い趣向があるようです。スワニルダとフランツの友人たちにも一人ずつちゃんと名前を付けて個性を持たせようとの計画をお聞きました。いろいろな点でバレエを少しでも楽しくしようとする意欲や努力が感じられます。古いバレエを現代の人々にもアピールするために、多くの舞踏家が頑張っているのです。今日は観客の皆さんもこの舞台を楽しんでいただくと同時に、何か素晴らしいものを得て帰途について行かれるものと思っています。

- 公演に寄せて（振付家の言葉）：山崎敬子

本日はお忙しい中、石神井バレエ・アカデミー創立 25 周年記念公演「コッペリア」に足をお運びいただきありがとうございます。

「コッペリア」は、ポーランドの片田舎で繰り広げられる恋物語を中心とした楽しいドラマです。世界中で上演されている有名なバレエですが、今回はドラマの基本は変えることなく、主役の“スワニルダ”“フランツ”“コッペリウス”“コッペリア”のように主な出演者それぞれに、殿井博氏のご尽力により名前を付けることが出来、個性ある役柄に作り上げました。3 幕も従来のような“時の踊り”“戦いの踊り”などとせず、村人・友人たちがスワニルダとフランツの結婚を祝う踊りとしました。あえて物語の内容を記しませんが、観客の皆様の自由な想像でお楽しみください。

貞松正一郎さんはじめ、男性ゲスト・ダンサーの皆さん、そしてご協力いただいたスタッフの方々に心から御礼申し上げます。

- 舞台写真

『コッペリア』



2007 年公演

バレエ・コンサート

日時：2007 年 11 月 22 日（木） 18：00 開場、18：30 開演

会場：練馬文化センター・小ホール

演出・振付：外崎芳昭、山崎敬子

スタッフ：（舞台監督）前田雅也[遊カンパニー]（照明デザイン）早瀬雅春（音響操作）長屋正一
（音楽制作）近藤徹志（舞台装置）遊カンパニー（衣裳）（株）バレリーナ 鈴木恵似子[グ
ルロアーブル]（プログラム編集・小道具）田口晶子

制作：外崎芳昭

プログラム

- 第 1 部 『ライモンダ』より 作曲：グラズノフ、原振付：プティパ
第 2 部 『バレエの情景』 作曲：ベリオ、振付：外崎芳昭
『ブラームス・スウィート』 作曲：ブラームス、振付：山崎敬子
『ジゼル』より パ・ド・ドゥ 作曲：アダン、原振付：ジャン・コラリ
第 3 部 『MICHINOKU』 演奏：ミラクル・パーカッション・アンサンブル
振付：山崎敬子
1. 西馬音内盆踊り（秋田・山形地方） 作曲：安達元彦
 2. 阿弋流為（アテルイ）の斗い（岩手地方） 作曲：和田薫
 3. 馬追い（福島地方） 作曲：Ramon Mayer
 4. 雀踊り（宮城地方） 作曲：William J. Schinstine
 5. じょんがら（青森地方） 作曲：William J. Schinstine

出演

南雲久美 中村誠[新国立劇場バレエ団] 金田あゆ子[金田・こうのバレエアカデミー] 村山亮
古川明子 富川直樹[小林紀子バレエシアター] 三浦敏幸 持田耕史[ユニーク・バレエ・シアター]
近藤徹志 玉利智裕 上原大也[牧阿佐美バレエ団] 大久保真貴子 久米百合枝 田口晶子
田中裕子 山口麗子 高野真由子 児玉海歩 大塚友香 安藤貴絵 鈴木飛鳥 山形理恵子
土屋しおり 糟谷舞

- 公演に寄せて（振付家の言葉）：山崎敬子

本日はお忙しい中、第 4 回石神井バレエ・アカデミー公演に足をお運びいただきありがとうございます。
す。

今回は久しぶりの創作バレエをメインにしたプログラムです。『MICHINOKU』は東北（みちのく）
を題材にした作品ですが、一つ一つに出会いがありました。

知人に面白い盆踊りがあると紹介された西馬音内の盆踊り。ある本の数行でしたが、阿弋流為（アテ
ルイ）という名の人物出会い興味を持ち調べてみると、郷土、民、家族を愛した岩手地方の悲劇の英雄
でした。そして、津軽地方の瞽女（ごぜ）[女性の盲人芸能者]、相馬地方の馬追いなどです。音楽は児玉

氏から頂いた CD『6 人の打楽器奏者のための打響聲應』との出会いでした。石神井バレエ・アカデミーとゲストダンサーとの協力で一つの作品として作り上げることができました。
一つ一つの出会いに感謝です。

- 公演写真

『MICHINOKU』



2009 年公演

日時：2009年9月11日（金）18：00 開場 18：30 開演

会場：練馬文化センター・小ホール

演出・振付：山崎敬子

スタッフ：（舞台監督）西澤明彦[遊カンパニー] （照明デザイン）工藤武夫[舞スタッフ]
（音響操作）相馬保之（音楽制作）近藤徹志（舞台装置）遊カンパニー
（衣裳）鈴木恵似子[グルロアーブル] ビーシーコスチューム

制作：外崎芳昭

プログラム

- 第1部 『白鳥の湖』第2幕より 音楽：チャイコフスキー
『リーズの結婚』より グラン・パ・ド・ドゥ 音楽：アルフォンス・チヨルド
- 第2部 『精霊たちの宴』 音楽：シャルル・グノー
『ラ・シルフィード』 音楽：コーベンス・ヨルド
『シルヴィア』 音楽：レオ・ドリーブ
- 第3部 『ドン・キホーテ』より 夢の場 音楽：レオ・ミンクス

出演

窪田弘樹[松岡伶子バレエ団] 村山亮 近藤徹志[谷桃子バレエ団] 武藤天華[貞松・浜田バレエ団]
田中裕子 南雲久美 山口愛[Kバレエカンパニー] 山口麗子 安藤貴絵 田口晶子 佐藤さやか
児玉海歩 小島美和 高野真由子 山形理恵子 松下英里 山岸麻梨乃 田所愛 塩田夕香里
大川夏季 豊口あゆみ 深田奈緒 飯塚朋子

- 公演に寄せて（振付家の言葉）：山崎敬子

本日はお忙しい中、ご来場いただきましてありがとうございます。

今回の公演は、「白鳥の湖」第2幕のハイライト、グラン・パ・ド・ドゥ集、「ドン・キホーテ」の中の主な踊りを夢の場面で、ディヴェルティメントとして上演いたします。

まだまだ未熟な私達ですが、日頃の練習の成果を男性ゲストの協力を得てお贈りいたします。若い息吹を感じていただけましたら幸いです。

2010年公演

日時：2010年9月10日（金）18：00開場 18：30開演

会場：練馬文化センター・小ホール

演出・振付：山崎敬子

スタッフ：（舞台監督）西澤明彦[遊カンパニー]（照明デザイン）工藤武夫[舞スタッフ]

（音響操作）相馬保之（音楽制作）近藤徹志（舞台装置）近藤邦廣[アステム遊カンパニー]

（衣裳）グルロアール 3年B組 アトリエ・ヨシノ B.C.コスチューム

制作：外崎芳昭

プログラム

『四季』	曲：ヴェルディ
『アマリリス』	曲：ギース 他
『一枚の絵』	曲：ピアソラ

出演

近藤徹志 村山亮 福原大介 上原大也 細野生 坂爪智来

田中裕子 南雲久美 山口愛 山口麗子 安藤貴絵 佐藤さやか 高野真由子 大川夏季 田所愛
飯塚朋子 岡澤楓

- 公演に寄せて（振付家の言葉）：山崎敬子

『四季』：ヴェルディの曲を用いたこの作品は、10人の男女ソリストダンサーによる踊りの饗宴です。

『一枚の絵』：主宰の山崎敬子がオルセー美術館で『一枚の絵』と題する絵画に出会い触発され、ピアソラの曲を用いて制作した作品です。6人の男性ダンサーによる魅力あふれる踊りをご期待ください。

『アマリリス』：子供の時より親しみのあるクラシック音楽の曲を用いて、バレエの素晴らしさ、楽しさをダンサーたちが心を込めて表現します。大人の方たちにも楽しんでいただける作品をと心がけて制作しました。

上記の3作品は、いずれも石神井バレエ・アカデミーの自主創作作品です。『四季』と『一枚の絵』再演に加え、『アマリリス』を初演いたします。この新作は、子供にも親しみのあるクラシック音楽を用いて、プロフェッショナルの大人のダンサーが踊る作品です。子供のためだからと幼稚にしたり、決して質を落としたりすることのない作品にしながらも、子供にバレエに触れて楽しんでもらおうという趣意で創作したものです。

児童達の多くは、学校の行事の一環として音楽鑑賞教室や演劇鑑賞教室として、劇場でクラシック音楽や演劇に触れる機会はあるでしょう。ところが、バレエを鑑賞する機会は極めて稀です。ご存知のようにバレエは、女の子のお稽古事や大人の美容やダイエットのためにだけ存在するものではありません。クラシック音楽や、オペラ、演劇と並んで西洋舞台芸術の中心です。西洋の舞台芸術の活動の発展のために建てられた新国立劇場には、常設のバレエ団が設置され公演を定期的に行っていることから分かります。

バレエに接したことの少ないほとんどの児童たちに、最初の体験を提供するのは、とても責任は重大です。慣れ親しんだ人には、ある時に見た公演の出来を、それまでの自分の観劇経験に照らし合わせて、

相対的に鑑賞し評価をすることができます。しかし、最初の出会いをする児童だったならば、彼らはそれ以前の鑑賞体験がないため、最初の出会いが絶対的な評価になります。そこで否定的な印象を抱かせてしまうと、以後それを持ち続け、2回目の鑑賞につながり難しくなってしまいます。興味をもてずに、自らバレエに接しようとは、しなくなってしまうでしょう。さらには、西洋の舞台芸術全体を嫌うことになることにも繋がりがねません。

そこで私たちは、『アマリリス』を創作するに当たり、児童が接しやすいようにと工夫をしました。一つ目は、音楽の選択です。児童にも親しみのあるクラシック音楽を用いました。音楽が親しみのあるものであれば、自然に舞台に集中してくれることでしょう。二つ目は、上演時間です。児童の集中力を考え、上演時間を40分程度に抑えました。しかし、内容に関しては、大人の鑑賞にも堪えるような質を追求しました。最初の体験になる児童が多いことを考え、良質の公演を提供するべきであると考えからです。

演出・振付／山崎敬子

石神井バレエ・アカデミー公演

アマリリス

(子供のためのバレエ)

一枚の絵

2010年9月10日(金) 18時開場 18時30分開演
練馬文化センター小ホール 4,000円(全席指定)

西武池袋線、西武有楽町線、都営大江戸線 練馬駅北口より徒歩1分

—チケットのお申込み—
 カンフェティチケットセンター ☎0120-240-540 (通話料無料) <http://confetti-web.com>
受付時間：平日10:00～18:00 ※携帯・PHSからもご利用いただけます。

石神井バレエ・アカデミー 03-3996-9041

—出演—
 田中裕子 南雲久美 山口愛 (Kバレエカンパニー) 山口麗子 安藤貴絵 佐藤さやか 高野真由子 大川夏季 田所愛 岩嶋知央
 近藤徹志 (谷橋子バレエ団) 村山亮 (フリー) 福原大介 (スターダンサーズバレエ団)
 上原大也 (牧阿佐美バレエ団) 細野生 (牧阿佐美バレエ団) 坂爪智栄 (牧阿佐美バレエ団) 原周石

舞台監督：西澤明彦 照明：工藤武夫 装置 (一枚の絵)：アステム 制作：外崎芳昭

フライヤー (表面)

2012 年公演

タイトル：創立 30 周年記念公演《バレエ・ラビリンス》

日時：2012 年 9 月 7 日（金）19：00 開演（18：30 開場）

会場：練馬文化センター小ホール

演出・振付：山崎敬子 バロックダンス振付・指導：市瀬陽子

スタッフ：（舞台監督）西澤明彦[遊カンパニー]（照明デザイン）工藤武夫[舞スタッフ]

（音響操作）長屋正一（音楽制作）近藤徹志（舞台装置）遊カンパニー

（衣裳）B.C.コスチューム アトリエ・3 年 2 組 市瀬陽子 グルロアール

制作：外崎芳昭

プログラム

第 I 部 第 1 場

J.-B.リュリ作曲 音楽悲劇『アティス』序曲

- 1 『アポロンのアントレ』 J.-B.リュリ作曲 バロックダンス (R.-A.フィエ振付)
- 2 『ジグ』 J.-B.リュリ作曲 バロックダンス (R.-A.フィエ振付) & クラシックバレエ
- 3 『シャコンヌ』 J.-B.リュリ作曲 バロックダンス (G.L.ペクール振付)
- 4 『まねっこ』 H.パーセル作曲 バロックダンス (G.L.ペクール振付) & クラシックバレエ
- 5 『サラバンド』 M.マレ作曲 バロックダンス (G.L.ペクール振付) & クラシックバレエ
- 6 『ラ・フォリア』 F.ジェミニアーニ作曲 バロックダンス (R.-A.フィエ振付)

第 I 部 第 2 場

- 1 『アレグレット』 J.M.クラウス作曲 ロマンティックバレエ
- 2 『ラ・シルフィード』 J.M.M.シュナイツホーファ作曲 ロマンティックバレエ
- 3 『ワルツ』 ルコック作曲 ロマンティックバレエ
- 4 『サラバンド／メヌエット／バディヌリ』 J.S.バッハ作曲 創作（バロックのスタイルで）
- 5 『For you』 P.チャイコフスキー作曲 コンテンポラリー

第 II 部 『眠りの森の美女』第 3 幕 P.チャイコフスキー作曲

出演

宮城文（谷桃子バレエ団） 西島眞希子 天野聖子 大久保真貴子 齊藤拓（谷桃子バレエ団）
上原大也（牧阿佐美バレエ団） 坂爪智来（牧阿佐美バレエ団） 細野生（牧阿佐美バレエ団）
三浦敏幸 井上浩一 村山亮 仲秋亜実（井上バレエ団）
田中裕子 南雲久美 田口晶子 山口麗子 佐藤さやか 大川夏季 田所愛 佐藤萌子 高野真由子
豊口あゆみ 松井綾子 池田愛子 岩佐樹里 甲斐ランベルあきよ 梶田有加

● 公演の趣旨

今回の公演は、バレエが確立して展開を始めた 17 世紀フランスに思いをはせて制作しました。さらに、「バロックダンス」、「ロマンティックバレエ」、「クラシックバレエ」、「コンテンポラリーダンス」、「バロックダンスのスタイルを踏まえての創作」というさまざまなスタイルのバレエの上演という新しい試みを目指しています。これはバレエの本場である西欧の劇場でも類を見ない新しい試みの公演であ

ると自負しています。新しいだけではなく「バレエの歴史」という理由がしっかりとある試みです。

17 世紀後半フランスで空前絶後の宮殿と庭園の建設が始まりました。現在世界遺産となっているヴェルサイユ宮殿です。その庭園はまるで巨大な迷宮「ラビリンス」のようです。その昔の宮廷人たちは庭園の中をめぐり歩き、巨大な運河で舟遊びをし、無数の彫刻や大小さまざまな噴水などを見て楽しみ、木立の中に作られ噴水が周りを囲む舞踏の広場でダンスを披露しました。楽しみにあふれるこの「ラビリンス」をイメージしながら、さまざまなスタイルのバレエが見られる公演を作り上げました。

第 I 部 第 1 場 —バロック—

17 世紀後半から 18 世紀にかけて、太陽王と呼ばれたフランス国王ルイ 14 世は、自らダンスのアカデミーやバレエ学校を創設します。これが現在のパリ・オペラ座へと通じるバレエの歴史の幕開けとなりました。ルイ 14 世時代に活躍した音楽家や振付家たち—ダンス場をたっぷり盛り込んだフランス風オペラを作曲した J.-B.リュリ、ダンスの記譜法を完成させた振付家 R.-A.フィエ、当時の人気ダンサーであり振付家としても名高い G.L.ペクールなどバレエ史を彩る人々の作品を、第 I 部・第 1 場でご紹介します。当時の振付は「舞踏譜」という形で数多く記録に残されており、私たちが今、それを読み解いて踊ることができるのです。ここでは、当時の舞踏譜に基づいた踊り（バロックダンス）と、それに想を得たクラシックバレエの新作を次々とお楽しみ頂く趣向としました。

第 I 部 第 2 場 —ロマンティックからコンテンポラリーへ—

18 世紀終わりフランスで大革命が起こり貴族たちの時代が終わりを迎え、時代が 19 世紀に入るとロマンティックバレエが誕生します。『ジゼル』や『ラ・シルフィード』という作品がその代表作です。その後クラシックバレエが生まれます。現在も頻繁に上演される『白鳥の湖』や『眠れる森の美女』などが代表作です。20 世紀に入るとバレエはさらに展開を見せてコンテンポラリーダンス（「同時代の踊り」の意味）が生まれます。

第 II 部 『眠れる森の美女』 第 3 幕 P.チャイコフスキー作曲 M.プティパ原振付

『眠れる森の美女』第 3 幕は 100 年の眠りについての主人公オーロラ姫が目覚めた時代を舞台にしており、それは 17 世紀であると設定されています。これは、バロックダンスとクラシックバレエの共演をテーマとする本日の公演で取り上げる作品として最適だと考えました。幕開けを飾るサラバンドは、ルイ王朝へのオマージュである『眠れる森の美女』において、バロック舞曲再生の象徴となっています。このバレエが書かれた 19 世紀後半にはすでにバロックダンスは舞台上で踊られることはありませんでしたが、新しい試みとしてクラシックバレエとバロックダンスの共演する『眠れる森の美女』を制作しました。

- 公演に寄せて（振付家の言葉）：山崎敬子

本日は、石神井バレエ・アカデミー30周年記念公演にお越し頂きありがとうございました。

第 I 部第 1 場では、想像力をたくましくして、もし 17、18 世紀にクラシックバレエがあったとしたら、どう踊られたでしょうとバロックダンスの 3 曲に無謀にも振付けてみました。第 2 場では、ロマンティックバレエからクラシックバレエ、さらに現代・未来へとつながるコンテンポラリーのプログラムを組んでみました。

第 II 部は、プティパ振付でロシアで誕生した『眠れる森の美女』（1890 年）の第 3 幕をお届けします。この作品は、100 年の眠りからオーロラ姫がデジレ王子の愛によって目覚める時代が 17 世紀フラ

ンスバロック時代と設定された作品です。そのことから、今回の「バロックダンスとクラシックバレエ」という公演のコンセプトにこの作品は最適と考え、選びました。

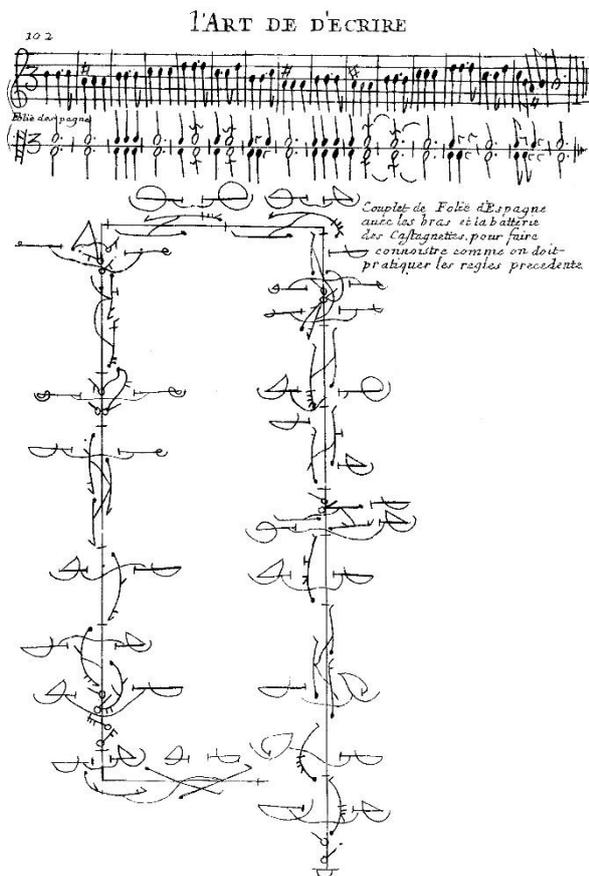
フランス 17 世紀にバレエが確立し興隆をはじめると同時に想いをはせながら、どうぞ迷路「ラビリンズ」で遊ぶように、さまざまなスタイルのバレエに出会いながら本公演を楽しんでいただけたら嬉しく存じます。

最後になりますが、市瀬先生のお力をお借りできての公演はとても幸せでした。ゲストはじめダンサーの皆さん、暑い夏のレッスンどうもありがとうございました。

- 公演に寄せて（振付家の言葉）：市瀬陽子

バレエ ～日本で、いま、これから

バロック・ダンスとクラシック・バレエが、21 世紀の日本で出会いました。バレエの歴史、現在そして未来。いつの世も、それぞれの作品には振付家や舞踊家が目指した新しい表現が息づいています。その精神に肉迫し、新たな着想を得、テクニックを刷新し、さらに指導のあり方を問い直す...いとまない冒険の中で、歴史は紡がれていきます。遙か 300 年前の作品も、初めて接するダンサーにとっては“昔の踊り”ではなく“新しく知ることになる世界”です。振付に取り組みされる山崎先生の眼差しは、バロック・ダンスとのセッションの中で鋭く輝き、その奥にはバレエへの深く永い愛情が煌めいていました。30 年にも及ぶ石神井バレエの歩みを思い、今日のステージが、舞台上の人々にも、そして客席の皆様にも、より自由な想像や知的な好奇心を刺激するものであってほしいと心から願っています。いま、これから、創造力あふれる新しいバレエへの期待をこめて！



左の図：「舞踏譜（振付を記した譜面）」18 世紀



バレエを踊るルイ14世(1653年)

石神井バレエアカデミー 30周年記念公演
「バレエ・ラビリンス」

2012年9月7日 練馬文化センター 小ホール

もし、17、18世紀にクラシックバレエがあったとしたら、どう踊られたでしょうと、バロックダンスとクラシックバレエの融合作品を。そしてロマンティックバレエからクラシックバレエ、さらに現代、未来へとつながるコンテンポラリーのプログラムを経て、「眠れる森の美女」第3幕を上演しました。この作品は100年の眠りからオーロラ姫がデジレ王子の愛によって目覚める時代が、17世紀フランスバロック時代と設定された作品です。作品の中で、バロックダンスとクラシックバレエが見事に融合され、それぞれのダンサー達がそれぞれの輝きを放っていました。沢山の拍手の中、成功のうちに幕を閉じる事ができました。



クラシック「まねっこ」



クラシック「ジグ」



バロック「サラバンド」



バロック「ラ・フォリア」



「アレグレット」



「パティヌリ」



「ラ・シルフィード」



「フォーユー」



「眠れる森の美女」第3幕



公演批評

石神井バレエ・アカデミー 創立30周年記念公演「バレエ・ラビリンス」

文 柴崎政夫

外崎芳昭・山崎敬子夫妻がバロック・ダンスの指導者・市瀬陽子の協力を得て、「バレエが確立した展開を始めた十七世紀フランス」に思いをはせて、上質な企画を催した。ヴェルサイユ宮殿と庭園を巡る人々が、船遊び・彫刻・噴水等を楽しめ、広場で舞踏を披露するといった知的冒険の「ラビリンス」をイメージした、多様なスタイルで舞踏の視野を広げてくれる公演である。

第一部一場は「バロック」。舞踊譜に残された踊りとそれに想を得たクラシックバレエの新作を披露。パチユを多用した「アポロンのアントレ」は、絵画から抜け出したような太陽王ルイ十四世とバレエとの関わりを象徴し開幕にふさわしい演出。続いて「ソング」。ジュテを多用したバロックとクラシックの対比。重心の位置が時代と共に高くなっていることが着目し理解でき楽しめる。「シヤコンヌ」を見ると、当時と現代では踊りのポイントが異なり、手先の変化や腰の揺れ等が当時は重要視されていたことがわかる。ベテール振付の「まねっこ」は女性一名づつでバロックとクラシックの対比。「サラバンド」は難曲。衣装にも時代変化が起り、バロックとクラシックではそれぞれの美しい動き、回転美の起点の違いが求める美の違いと重なる明確に表現されていた。六人で踊る「ラ・フォリア」は照明効果により、シエルエットの美しさを際立たせることに成功。瞬時に照明を逆転する演出で優雅な時代の空気が堪能できた。

第一部二場は「ロマンティックからコンテンポラリー」と題し、バレエの歴史の発展を提示、はじめは、スウェーデンでクラウスのバレエ（舞師

「バレリーナへの道」Vol.92 (発行：株文園社)

たちから「アレクサンドル」。女性六名によるロマンティックバレエ。生き生きと観客を魅了した。次が定番の「ラ・シルフィード」二幕抜粋の「パド・ドゥ」。体形に適った山口舞子・坂爪智来が明るい雰囲気の中で通りに踊りつけた。続いてルゴックのワルツ。上原大地・細野生の男性二人がアメリカンバレエの新作をしながら軽快で生き生きとした演技を繰り広げた。最後はパツハ作曲の三曲「サラバンド・メヌエット・パディスリ」を女性九名が開放感あふれるバロックスタイルの創作として踊りきった。

第二部は「眠れる森の美女」第三幕。客席がいっつになく大人びた風情で満たされ、華やかさを飾るサラバンドに焦点を当てた演出が心憎い。今や定番の「パド・トロワ」、長靴を履いた猫と白い猫、省略なしのブルーパードのグラン・パド・ドゥ、赤ずきんちゃんを象とった演目が誠実に丁寧な仕上がりで披露されて行く。宮城文・斎藤拓のグラン・パド・ドゥも肝巻。宮城のオーロラ姫は東洋の真珠を思わせる風情で「バロック」という名にふさわしい。斎藤のデジレ王子は円熟期を迎えつつあり、サポート力にも余裕をみせる。共に名人芸を披露して観客を満足させたところで、一瞬幕を下ろして再び上げる演出に客席が戸惑う。しかし、すぐにルイ十四世賛歌の演奏によって全員によるカーテンコールを迎え、拍手喝采のうちに幕となった。バロック時代の豪華衣装で再演することを願う。

(9月7日 練馬文化センター小ホール)

バロックとクラシックを融合

石神井バレエ・アカデミー

外崎芳昭と山崎敬子が主宰する石神井バレエ・アカデミー。バレエ・ラビリンス(迷宮)のまじり込み合わせとして

第一部は「パード」に分かれ、まず舞台を駆け回し「パド・ドゥ」や「パド・セル」などの音楽で、十七、十八世紀の伝統的なバロックを主体に、一部ポアントによるクラシック要素を挿入する。ワイルドな衣装によるダンスには、初めは固さも見え、やや違和感があったが、じよよに出演者たちも雰囲気慣れて、動きもスムーズになり、その気質を表現した。パート二は、ロマンティックからクラシック時代の舞踊曲による五曲。山口舞子と坂爪智来の「ラ・シルフィード」の「パド・ドゥ」を採り、山崎が振り付けた小品「上原大地・細野生」と、最後に「眠れる森の美女」の「プロローグ」妖精たちが踊るの情景に合わせた「パド・シス」For You』各妖精の曲想を生かした自由な振りに、南雲久美、甲中裕子のダンサーたちも、よく大人の表現、動きをみせた。

て、宮廷舞踊研究者の市瀬陽子の指導を受けて、バロックとバレエの接点を探り、その融合を試みる公演を行った。

第三幕。宮廷におけるバレエという意味を生かした演出。まずサラバンドで始まり、あとは、ディヴェルティスマン、宮城文のオーロラ姫、斎藤拓の王子によるラン・パド・ドゥ、そしてメヌエルクによるランゴッタ。ブルーパードのグラン・パは佐藤さやかと上原大地、その他宝石の「パド・トロワ」猫、赤ずきんなど、ゲストの気性と踊った。アカデミーダンサーたちもなかなか踊っている動きとスタイルもあっていて、グラン・パの舞臺、斎藤も、やや狭い舞臺で踊りにくい面もあったが、この会の目的である、十七、十八世紀の時代を再現するといふ面では、ノーブル端正な動きで、よく効果あけていた。

(九月七日 練馬文化センター小ホール) ちろまきと

「週刊 オン★ステージ新聞」

2012年10月12日発行

THE DANCE TIMES <http://www.dance-times.com/>

【批評】 石神井バレエ・アカデミー創立30周年 記念公演《バレエ・ラビリンス》

外崎芳昭・山崎敬子が主宰する石神井バレエ・アカデミーの創立30周年を記念する公演が行われた。総タイトルの《バレエ・ラビリンス》には、彼らがバレエの迷路に踏み込んで進むべき道をけんめいに探し求めていることを暗示する意味が込められていたと思う。

第一部、第一場は「バロック」と名付けられていて、バロック・ダンスの市瀬陽子の指導による昔のステップに、山崎敬子がバレエ的に手を加えた6本が並んでいた。17～8世紀に踊られたダンスは、今のクラシック・バレエのステップと遠くでつながっている。これは、その類似するところを探りあてようとするけんめいの試みだったと思う。

第一部、第二場は「ロマンティックからコンテンポラリー」で、ロマンティック・バレエ

の『ラ・シルフィード』の「パド・ドゥ」などからコンテンポラリーの『For You』に至る5作品が並んだ。

『For You』は、『眠れる森の美女』のプロローグで妖精たちが誕生したオーロラ姫にお祝いの品を贈る「パド・シス」の曲を使った6人の女性の踊りだ。バレエのステップの中にたくみにコンテンポラリー風の動きを混ぜ込んで作った、モダンな感覚のアブストラクト作品だが、妖精らしいしぐさがさり気なく織り込まれていて、元のシーンを想像できるおもしろさがある。

そして第二部の『眠れる森の美女』第三幕となるのだが、ここで『For You』を先上演した意味が生きてくる。第二部にはリラの精などの妖精は出てこないのだ。オーロラ姫＝宮城文、デジレ王子＝斎藤拓の谷桃子バレエ団コンビを起用して芯を固め、にぎやかにディヴェルティスマンを披露した。

練馬文化センターの小ホールを使って『眠

れる森の美女』をやることの無謀さを、大ベテランの外崎芳昭、山崎敬子が知らないわけではない。彼らはそれを承知で、バレエ以前のバロックの世界につながる道へと踏み込んで行ったのだろう。かつて東勇作らが探求した遠い世界を、今また思い出させてくれた二人に感謝しよう。(山野博大 2012年9月7日 / 練馬文化センター小ホール)

「THE DANCE TIMES」

2012年9月11日配信

<http://www.dance-times.com/>

2014年公演

公益財団法人練馬区文化振興協会 舞台芸術支援事業

タイトル：《バレエ・ラビリンス》

日時：2014年7月5日(土) 18:00開演 (17:30開場)

会場：練馬文化センター・大ホール

演出・振付：山崎敬子 バロックダンス振付・指導：市瀬陽子

指揮：福田一雄 オーケストラ：東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団

舞台監督：前田雅也 バレエミストレス：田中裕子 照明デザイン：工藤武夫 照明：舞スタッフ

舞台装置：遊カンパニー 音楽制作：近藤徹志 音響操作：長屋正一

衣装：アトリエ・ヨシノ 市瀬陽子 事務局：西村光弘

制作：外崎芳昭

企業メセナ協議会助成認定活動

プログラム

第I部 『バレエの始まりから今日まで』

1. 『アポロンのアントレ』 J.-B.リュリ作曲 R.-A.フィエ振付
2. 『ダンスさまざま』 J.-F.ルベル作曲
3. 『スペインのフォリアによる即興演奏』 R.-A.フィエ、G.-L.ペクール原振付
4. 『アレグレット』 J.M.クラウス作曲
5. 『ワルツ』 ルコック作曲
6. 『ラ・シルフィード』 H.S.レーヴェンショルド作曲
7. 『グラン・パ・クラシック』 F.オベール作曲
- 6 『For you』 (『フォー・ミカ』改め) P.チャイコフスキー作曲

第II部 『眠りの森の美女』第3幕 P.チャイコフスキー作曲 M.プティパ原振付

出演者氏名

[クラシックバレエ]:

吉田都 齊藤拓

西田祐子 上原大也 厚木彩 坂爪智来 細野生 石田亮一 青木淳一 土橋冬夢 西島勇人

西島眞希子 天野聖子 大久保真貴子 三浦敏幸 井上浩一 村山亮

南雲久美 山口麗子 佐藤さやか 佐藤萌子 田所愛 高野真由子 児玉海歩 豊口あゆみ

上村麻緒 菅井理渚 田口晶子

[バロックダンス]:

市瀬陽子 梶田有加 三上夏子 足立万莉 山田茉莉 和田里奈 阿部莉乃 太田瑠璃 大坪奈実

野口夏帆 [演奏者] 竹内太郎



演出・振付
山崎敬子



ごあいさつ



山崎 敬子

本日は石神井バレエ・アカデミー公演《バレエ・ラピリンズ》にご来場いただき誠にありがとうございます。2012年の初演とは一部趣を変え、バレエの歴史の変遷がより分かりやすいように工夫を致しました。

バレエは、ルネサンス期のイタリアでバッコと呼ばれていたダンスを起源としています。フランスの宮廷に伝えられ、17世紀後半には王立舞踊アカデミーが設立され発展してゆきました。この時代の踊りがバロックダンスです。19世紀になるとロマンティックバレエが生まれ、その後クラシックバレエへとつながり、20世紀になるとコンテンポラリーダンスが生まれます。バレエは、時代に沿って変化を遂げています！

一昨年の公演に引き続き、本公演でもクラシックバレエをクライマックスに据え、バレエの奥深い美しさをお伝えしたいと思っております。吉田都さんが特別のご厚意でオーロラ姫を踊っていただけることになりました。格調の高いイギリスのロイヤルバレエ・スタイルを、バロックダンスで踊るサラバンドからの流れでお見せ致します。童話に登場する妖精たちの踊りもどうぞお楽しみください。指揮を福田一雄先生に、バロックダンス振付とフォリアのソロを市瀬陽子先生にお願いし、出演者一同、皆様に楽しんでいただけるよう精進致しました。

谷桃子バレエ団・齊藤拓さんを始め、牧阿佐美バレエ団、スターダンサーズ・バレエ団、NBAバレエ団、フリーのダンサー、セーヌ・エ・サロン(昭和音楽大学バレエコース&短期大学部バレエコース学生を含む)からゲスト出演していただきました皆さま、ご協力に篤く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。



©西村康(SOLTEC)

吉田 都

東京生まれ。9歳でバレエを習い始める。1983年ローザンヌ国際バレエコンクールでローザンヌ賞受賞。英国ロイヤル・バレエスクールに留学後、84年サドラズウェルズ・ロイヤル・バレエ団(現パーミンガム・ロイヤル・バレエ団)入団。88年最高位のプリンシパルに昇格。95年英国ロイヤル・バレエ団へプリンシパルとして移籍。2004年ユネスコ平和芸術家。07年紫綬褒章受章、大英帝国勲章(OBE)受章。12年国連UNHCR協会国連難民親善アーティスト。その表現力、確かなテクニックと音楽性、愛らしい容姿で抜群の人気を誇る。10年6月に英国ロイヤル・バレエ団退団後、フリーのバレリーナとして、ボランティア活動や後進の育成等も含め、幅広く活躍中。



齊藤 拓

谷桃子バレエ団芸術監督・プリンシパルダンサー。アサバレエアカデミアにてバレエを学ぶ。1995年九州交響楽団「ジゼル」に出演。1997年谷桃子バレエ団入団、現在まで数々の作品にて主役。2000年ミンスク・ポリショイバレエ団「白鳥の湖」主役。2003~07年日本バレエ協会「くるみ割り人形」「ドン・キホーテ」「白鳥の湖」「ジゼル」など主役。2002年日本バレエフェスティバル金森積振付「Positive: Negative」、創作バレエ・12「古典と動作」坂本登喜彦振付「Shout on the line」、2007年ローザンヌ・ガラ坂本登喜彦振付「ロミオとジュリエット」に出演。久留米市芸術奨励賞、中川鋭之助賞、橘秋子優秀賞受賞。



福田一雄

シアターオーケストラトキョー音楽監督。新国立劇場バレエ研修所講師。5歳より絶対音感早期教育を受け、ピアノをポール・ウィノグラドフ(元モスクワ音楽院教授)氏に師事。1957年読売ホールにおいて「バレエ音楽の夕べ」を企画し、日本フィルハーモニー管弦楽団を指揮、指揮者としてデビューした。NHK「世界の音楽」、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」の指揮者として国内外のソリストと共演。『白雪姫』『みにくいアヒルの子』など子供のためのバレエの作曲を手掛ける。多方面にわたる音楽活動のうち、ライフワークとして関わってきたのがバレエ音楽の研究である。永年、多くのバレエ団との指揮活動の他、バレエ音楽の歴史、および複雑多岐にわたる楽譜の整理と蒐集を行いバレエ界に多大な貢献をしている。

バロックを楽しませる工夫

石神井バレエアカデミーの バレエ・ラビリンス

外崎芳昭と山崎敬子が主宰する石神井バレエ・アカデミーの『バレエ・ラビリンス』公演は一昨年に続く二回目。バレエの原型がイタリアからフランスの宮廷に持ち込まれクラシックバレエにいたる変遷を、各時代の舞踊を散りばめて見せるコンセプトは前回同様だが、個別にはいろいろ手が増えられている。全体の演出・振付は山崎で、バロックダンスの振付者として市瀬陽子が名を連ねる。

舞踊評

以前はバロックダンスという年配の音楽愛好家があったなむものイメージがあったが、市瀬らの長年の努力により近年は舞踊家からの関心も高まり上演水準も向上。お勉強のつもりでなくとも、ただ見て楽しいものになってきた。特にこの作品は下手側にバロックダンスを習う現代人、上手側に往時の貴顕を配して時空を分割し、それがときどき混じり合うしくみ。そこに観客を楽しませる工夫をこまめに盛り込む。踊りもバロック期の細かい足技、ロマンチック期の上体の使い方など、特徴が明快に示されていておもしろい。第一部最後の『Fairy』は『眠れる森の美女』プロローグで妖精たちが踊るパ・ド・シスの曲を使っ

た現代作品で、お揃いの赤いワンピースを着たバレエシューズの六人の、原振付を拡張した動きに興味をひかれた。第二部は『眠れる森の美女』三幕。サラバンドを最初の方

に置くことで第一部の変奏のように感じさせる。今回は吉田都のオーロラが呼び物だが、フロリナを西田佑子が踊るのも注目された。この日もそつなくきれいに踊ったもの

の、西田ならではの安定感や上体の伸びやかさには欠けた印象がある。青い鳥の上原大也は難技の連続を一つの滑らかな流れで表現して秀逸。گران・パ・ド・ドゥの吉田はあえて動きを抑え、技術の誇示を最小限にすることで、動

き残りの空間に金色の光の粉が放出されるような踊りを見せた。デジレ王子の齊藤拓は、さりげない信頼感と、ゆったりと納まりのいい踊りに味わいがあった。(七月五日 練馬文化センター) 門行人



バレエラビリンス公演「眠れる森の美女」より
吉田都と斎藤拓。 ©瀬戸秀美

2017年公演

タイトル：《Triple Bill トリプル・ビル》

日時：2017年7月4日(火) 18:30開演 (17:45開場)

会場：文京シビックホール・大ホール

演出・振付：山崎 敬子

舞台監督：西澤 明彦 (遊カンパニー) 照明：工藤 武夫 (舞スタッフ)

装置：遊カンパニー アステム (《一枚の絵》)

衣裳制作：林 なつ子 (工房いーち) グルロ アーブル

音楽編集：近藤 徹志 音響操作：相馬 保之

事務局：西村 光弘 制作：外崎 芳昭

プログラム・出演者

《パ・ド・カトル》

音楽：チャーザレ・プーニ 原振付：アントン・ドーリン

タリオーニ：吉田 都

グラーン：酒井 はな

グリジ：西田 佑子

チェリート：沖 香菜子

《一枚の絵》

音楽：アストル・ピアソラ 作・振付：山崎敬子

高岸 直樹

池本 祥真・細野 生・土橋 冬夢

浅田 良和

秋元 康臣

《四季》

音楽：ジュゼッペ・ヴェルディ 作・振付：山崎敬子

冬：池本 祥真

南雲 久美・山口 麗子・安藤 貴絵

佐藤 さやか・児玉 海歩・泉 有香

春：西田 佑子・秋元 康臣

夏：酒井 はな・浅田 良和

秋：吉田 都・高岸 直樹

安藤 貴絵・細野 生・土橋 冬夢

南雲 久美・山口 麗子・佐藤 さやか

児玉 海歩・泉 有香



《パ・ド・カトル》初演（1845年）の記念画



『バジールのアトリエ ラ・コンダミンヌ通り』
 作者：フレデリック・バジール
 （演目の振付《一枚の絵》の主題となった油絵）

フライヤー




吉田 都

トリプル・ビル

Triple Bill

パ・ド・カトル 一枚の絵 四季

音楽：プーニ 原振付：ドーリン 音楽：ピアノラ 振付：山崎敬子 音楽：ヴェルディ 振付：山崎敬子

2017年 **7/4** 火 18:30開演

文京シビックホール
大ホール
(文京区春田1-16-21)

トリプル・ビル

石神井バレエ・アカデミー

2017年 **7月4日(火)** 17:45開場
18:30開演
文京シビックホール・大ホール

CAST



パ・ド・カトル初演1845年の記念画

高岸 直樹	吉田 都
秋元 康臣 (演出/バレエ振)	酒井 はな
浅田 良和	西田 佑子
池本 祥真	沖 香葉子 (演出/バレエ振)
御野 生 (演出/バレエ振)	
土橋 冬夢 (演出/バレエ振)	

チケット料金

《全席指定》 S 10,000円
A 8,000円
B 6,000円

チケット取扱い 《販売》3月10日(金)10:00から

Confetti 0120-240-540 (平日10-18時)
http://confetti-web.com

以下を必ず券の上にご記入ください
 ※公演日(2017年7月4日)現在の住所です。郵便や移動など、住所が変更になった場合は公演前にお知らせください。
 ※公演当日は必ずチケット控えを必ずお持ちください。
 ※公演当日のお手紙の記入は不要です。
 ※必ずチケット控えの住所を必ずお書きください。



〒112-8602
東京都文京区春田1-16-21 文京シビックホール 大ホール
交通アクセス
東武東上線「春日」駅より徒歩10分(徒歩) 徒歩10分
| 池袋駅西口より徒歩15分(徒歩) 徒歩15分
http://www.shakujii-ballet.com/

プログラムより



山崎 敬子

本日はお忙しいなか、石神井バレエ・アカデミーの公演にお越しいただきありがとうございます。
 本日の公演は、日本を代表する吉田都さん、高岸直樹さん、酒井はなさんなど、ベテランから若手までの各世代を代表する素晴らしいダンサーたちが出演してくださることになり、私自身とても感激しております。
 《パド・カトル》で名花たちを、《一枚の絵》で男性のロマンを、《四季》で豪華な踊りの競い合いを繰り広げます。
 どうぞお楽しみくださいますように。感謝を込めて。

吉田 都

Miyako Yoshida



9歳でバレエを始め、83年ローザンヌ国際バレエコンクールでローザンヌ賞受賞後、英国ロイヤルバレエスクールに留学。84年サドラーズウェルズ・ロイヤルバレエ団(現パーミンガム・ロイヤルバレエ団)に入団、4年後にプリンシパルに昇格。95年英国ロイヤルバレエ団へプリンシパルとして移籍。高い表現力、確かなテクニックと音楽性、愛らしい容姿で、抜群の人気を持つ世界最高峰のバレリーナとして活躍。22年間にわたり最高位であるプリンシパルとして世界の頂点を極め「ロイヤルバレエの至宝」と称された。現在はフリーのバレリーナとして舞台上に立ち続ける傍ら後進の育成にも力を注ぐ。英国批評家協会最優秀女性ダンサー賞、紫綬褒章、大英帝国勲章(OBE)など受賞歴多数。昨年50歳を機に「バレリーナ 踊り続ける理由」を河出書房から出版。

酒井 はな

Hana Sakai



1979年からバレエを始め、畑佐俊明に師事。橋バレエ学校、教阿佐美バレエ団に入団し、14歳でキュービット役に抜擢、18歳で主役デビュー。97年新国立劇場バレエ団設立と同時に移籍、主役を務める。07年劇団四季の『コンタクト』と09年『アンデルセン』にゲスト出演。96年村松賞新人賞、舞踊評論家協会新人賞、97年中川純之助賞、98年芸術選奨文部大臣賞新人賞、00年服部智恵子賞、08年舞踊批評家協会賞、09年芸術選奨文部科学大臣賞受賞、15年ニーム舞踊賞、17年紫綬褒章など。

西田 佑子

Yuko Nishida



3歳より大阪の法村友井バレエ学校入学。宮本東代子・法村牧緒、石川恵口に師事。1995年フィンランド国際バレエコンクール、1997年ローザンヌ国際バレエコンクール、ファイナリスト。1997年英国ロイヤルバレエスクールに留学。帰国後、法村友井バレエ団に入団。数々の主役を務める他、第29回日本バレエ協会関西支部公演「海賊」全幕、2004年日本バレエ協会都民芸術フェスティバル公演「現れる森の美女」全幕などバレエ協会でも主役を務める。2004年同バレエ団を退団後、フリー。2005年大阪舞台芸術新人賞受賞。2009年第40回舞踊批評家協会新人賞受賞。2010年第20回財団法人松山バレエ団顕彰 芸術奨励賞受賞。2008年、2011年に日本バレエ協会都民芸術フェスティバル公演にて主演。2015年青山バレエフェスティバルLASTSHOW等、数々の舞台に出演。現在、西田佑子バレエスタジオを主宰。

沖 香葉子

(東京バレエ団)

Kanako Oki



文化庁新進芸術家の海外研修制度にてモスクワ舞踊学校に留学。現在、チャイコフスキー記念東京バレエ団に所属。『フ・シルフィード』『ドン・キホーテ』『くるみ割り人形』『ロミオとジュリエット』『子どものための眠れる森の美女』にて主演。

高岸 直樹

Naoki Takagishi



86年東京バレエ団入団。87年ベジヤールの「ザ・カブキ」において、弱冠21歳で由良之助に抜擢され一躍話題となり、あらゆるレパートリーで主役を演じる。ミラノスカラ座、パリオペラ座、ベルリン国立歌劇場、ボリショイ劇場、マリンスキー劇場など海外でも活躍。ジョルジュ・ドンの代わりに踊った「ボレロ」ではカーテンコールが25分という大成功を取めた。91年にはシルヴィ・ギエムの相手役として「白鳥の湖」を踊り、オーストラリア・バレエ団に3か月間客演。その他ベルリンにて「マラーホフ&フレンズ」、「オーストラリア・バレエ団50周年記念ガラ」、「月に寄せる七つの俳句」のハンブルク・バレエ初演、フレンツェ歌劇場で東日本大震災復興支援公演など客演多数。2015年東京バレエ団を退団し、高岸直樹ダンスアトリエ設立。

秋元 康臣

(東京バレエ団)

Yasuomi Akimoto



3歳よりバレエを始める。2000年、12歳でボリショイ・バレエ学校に留学。06年18歳で同校を卒業。05年モスクワ国際バレエコンクールでファイナリスト、06年タンツオリンピ第3位。14年ベルミ国際バレエコンクール「アラベスク」で銀賞を受賞。国内のカンパニーを経て、チェリヤビンスク・バレエに入団。プリンパルとして活躍する。15年夏、東京バレエ団にプリンパルとして入団。

浅田 良和

Yoshikazu Asada



宮木登美、山内貴雄、小柴葉朕に師事。2002年東京新聞全国舞踊コンクールバレエ2部第1位。2004年ジャパングランプリ ジュニアA第1位金賞を受賞。2005年-2006年英国ロイヤル・バレエスクールへ留学。2006年ユース・アメリカ・グランプリ日本予選シニア第1位。2007年NBA全国バレエコンクール高校生の部第1位、ユースアメリカグランプリニューヨークファイナル男性シニア第2位を受賞。同コンクールでスカラーシップを獲得し、ウィーン国立歌劇場バレエ団研修生となる。帰国後、Kバレエカンパニーにソリストとして入団。出演作は「白鳥の湖」、「くるみ割り人形」、「シンデレラ」、「シンフォニー・イン・C」、「ロミオとジュリエット」、「海賊」など。退団後、武蔵野シティバレエ定期公演、日本バレエ協会公演、都民芸術フェスティバル公演などで主役を演じるほか、スターダンサーズバレエ団にも主演として客演。

池本 祥真

Shoma Ikemoto



5歳よりバレエを始める。2005年ボリショイ・バレエ学校に入学。2007年第17回全国バレエコンクールin nagoya男子ジュニアB部門第1位。2008年国立バレエ・モスクワにソリストとして入団。10年ベルミ州国際オープン・バレエコンクール金賞、「岩田守弘と日本のバレエスターたち」に出演。2010年2月、Kバレエカンパニーに入団。2015年8月ファースト・ソリストに昇格。主な出演作は、『くるみ割り人形』王子/雪の王、『ロミオとジュリエット』のロミオ/マキューシオ、『ラ・バヤデル』のソロル/ブロンズ・アイドル、『シンデレラ』の王子/2人の道化師/王子の友人、『海賊』のアリ、『白鳥の湖』のペンノバ・ド・トロワ、『ジゼル』のバ・ド・シス/ヘザント など。

細野 生

(牧阿佐美バレエ団)

Ikuru Hosono



6歳よりバレエをはじめ、12歳からSasaki Mika Ballet Academyにて佐々木三夏、池端幹雄に師事する。18歳から牧阿佐美バレエ団に入団して以後全ての公演に出演する。おもな出演作品:「白鳥の湖」ナポリターナ、「眠れる森の美女」サファイア、「くるみ割り人形」ドロツセルマイヤーの甥、トレバック、チャイナ、「三銃士」国王ルイ13世、三谷恭三振付「ヴァリエーションfor 4」、E.アシムトン「リーズの結婚〜ラ・フィニ・コ・マルゲ〜」アラン、フルートボーイほか、「ドン・キホーテ」、「ジゼル」、「ライモンダ」など多数。

土橋 冬夢

(NBAバレエ団)

Tomu Dobashi



3歳よりバレエを始める。2007年ジャパングランプリにおいてスカラーシップ賞を受賞し、North Carolina School Of The Artsに短期留学。2008年、Prix du Japonにおいてスカラーシップ賞を受賞しハンガリー国立バレエ学校に2年間留学。2009年Prix du Japon審査委員長特別賞を受賞。2010年にハンガリー国立バレエ学校を卒業し、翌年NBAバレエ団に入団。

石神井バレエ・アカデミー



南雲 久美
Kumi Nagumo



山口 麗子
Reiko Yamaguchi



安藤 貴絵
Kie Ando



佐藤 さやか
Sayaka Sato



児玉 海歩
Miho Kodama



泉 有香
Yuka Izumi

発行所
株式会社
オン★ステージ新聞社
東京都品川区西五反田2-24-7
シティコープ西五反田506号(〒141-0031)
TEL 03-5496-2461
FAX 03-5496-2462
E-mail: onstage@mist.ocn.ne.jp
URL: http://on-stage.sakura.ne.jp
郵便振替 00140-8-157506
銀行口座 三井住友銀行五反田支店 普通 1395684
購読料 1年分 7300円

— 音楽・舞踊・演劇・映像の総合専門紙 —
週刊 オン★ステージ 新聞
THE PERFORMING ARTS JOURNAL

2017年 8月4日 第2140号 (週刊・毎週金曜日発行) 昭和46年6月3日第三種郵便物認可 定価150円(税込)



『パ・ド・カトル』の中央吉田都(前面) 沖香菜子と、酒井はな(右)と西田佑子(左) ©瀬戸秀美

豪華、異色の組み合わせが出現

「パ・ド・カトル」に注目 石神井バレエアカデミー トリプルビル

外崎芳昭、山崎敬子主宰の石神井バレエアカデミー公演「トリプルビル」。まず目を惹くのは豪華、かつ異色の出演者群だ。さらに、まず女性のみ、男性のみの作品を並べ、最後にそのメンバーが組んで踊るという構成も興味。

『パ・ド・カトル』はとくに注目。タリオ二役に吉田都、さらに酒井はな、西田佑子というそれぞれの世代を代表するバレリーナに、若手の沖香菜子を組み合わせる。しかもこれだけ幅広く活躍するメンバーが初顔合わせというのも驚きだ。この作品の見所は、ロマンティック・バレエのエトワールたちに扮する出演者がそれぞれ自身を主張しつつ、全体として深みのあるコンビネーションを創造すること。

照明も効果的で、今後再び見られるかどうかという貴重な舞台だった。個人的な欲をいっと、もう少し火花が散ってもよかったかも。

『一枚の絵』は、山崎がフランスで見た絵に触発されて振付した作品。再演だが、出演者が変り改訂されている。画家のアトリエ、主人公は高岸直樹、いろいろな作品に対する思いを語る。そこに彼の仲間とも、絵の精、象徴とも見える男性たちが登場、それぞれが多彩な空間、心象を描き出す。まず池本祥真、細野生、土橋冬夢のトリオ、端正、かつ激しい浅田良和、酔っ払いのコミカルな秋元康臣のソロ、そしてさまさまなやりとりその後、高岸が一つの絵のボウズで終わる。ピアノの音楽、個性的な実力者たちを高岸がうまくまとめ、

最後は『四季』(音楽・ウェルテ)。池本と南雲久美、山口麗子ら六人の女性による冬に始まり、西田と秋元のグラン・パ・ド・ドウ形式の舞。夏は酒井と浅田のロマンティックなアタリシヨ。秋は存在感を示す吉田、高岸を志に安藤貴絵と細野、土橋のトリオに五人の女性によるコーダ。

魅力十分の組み合わせで、それぞれがしっかり自己を表現。アカデミーのメンバーたちもきちんと舞台を作り上げた。

舞踊評

(七月四日 文京シビックホール・大ホール) くらまこ

石神井バレエ・アカデミー公演「Triple Bill」
2017.7.4 文京シビック大ホール

1 of 3
Shakujii Ballet Academy
Triple Bill

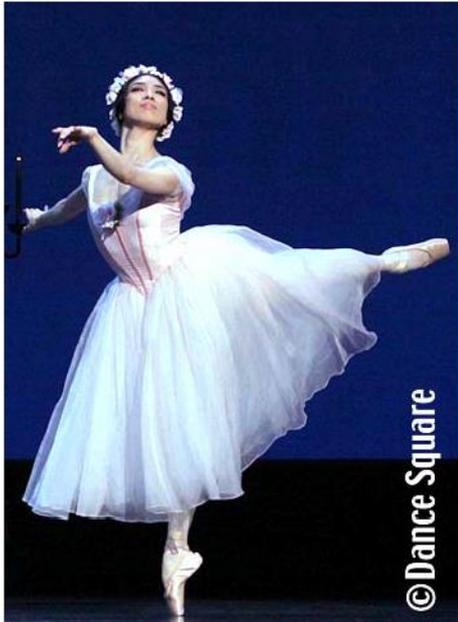


隅田有のシアター・インキュベーター

外崎芳昭と山崎敬子が主宰する石神井バレエ・アカデミー公演《トリプル・ビル》が上演された。演目は『パ・ド・カトル』、山崎振付の『一枚の絵』と『四季』。午前中に九州に上陸した台風3号が北上する中、文京シビックホールは熱気に包まれた。

『パ・ド・カトル』

音楽/チャーザレ・ブーニ
原振付/アントン・ドーリン



グラウン：酒井はな

web マガジン ダンス・スクエア
 (http://www.dance-square.jp/index.html) より
 評：隅田 有
<http://www.dance-square.jp/shm1.html>
<http://www.dance-square.jp/shm2.html>
<http://www.dance-square.jp/shm3.html>
 (2020年3月8日確認)

タリオニーが吉田都、グラーンが酒井はな、グリジが西田佑子、チェリートが沖 香菜子という豪華キャスト。幕が開くと、スポットライトの中、吉田を芯に3人が囲む有名なポーズが現れる。序盤の4人で踊る場面では、ほとんど床を離れない奥ゆかしいジャンプや、少し上体を傾けて客席に愛嬌を振りまくアラベスクなど、ロマンティック・バレエの趣に溢れていた。腕の動きや視線を使ったダンサー同士のコミュニケーションが優雅だ。横に一列に並び、ポアントワークを見せるシーンでは拍手が湧き、前半が終わりそれぞれのソロに移る際には、客席からうっとりとした溜め息が聞かれた。



グリジ：西田佑子





チェリート：沖 香菜子



タリオーニ：吉田 都



グリーンとチェリートの配役が、筆者の予想とは逆であったが、そのため沖のソロの前に、吉田と酒井のデュエットという贅沢なシーンが見られた。ベテラン二人によるイントロダクションに続いて登場した沖は、すでに『ラ・シルフィード』のタイトルロールなどで、ロマンティック・バレエのスタイルを体得している。長いチュチュがふわりと揺れるのと同じくらい柔らかく腕を使い、アントルラッセなどの大きなジャンプも、しなやかに仕上げていた。



音楽性にも華にも優れた4人は、ことさらにステップを合わせることなく、各自が“主演女優”として最も映えるタイミングで踊っていた。それを許すのが『パ・ド・カトル』という作品であり、そのように踊られてこそ本作の魅力が生きる。ダンサーの年齢を語るのは無粋ではあるが、吉田は早くも50代という。50代から20代まで各年代からキャストされていたのは、果たして意図的なのだろうか。とまれ、表現者として丁寧に経験を積んできたダンサーは、その時々に対応しい輝きを持つ。バレリーナのキャリアは存外長いものなのだなあと気づかされるステージだった。



- [What's New](#)
- [Coming Soon](#)
- [Back Number](#)
- [Top Page](#)
- [Information](#)

石神井バレエ・アカデミー公演「Triple Bill」
2017.7.4 文京シビック大ホール

2of 3
Shakujii Ballet Academy
Triple Bill



高岸直樹

『一枚の絵』

音楽／アストル・ピアソラ
作・振付／山崎敬子



池本祥真 細野生 土橋冬夢

『パジールのアトリエラ・コンダミンヌ通り』という
絵画からインスパイアされた作品。作者のフレデ
リック・パジールはモネと同時代の画家だ。

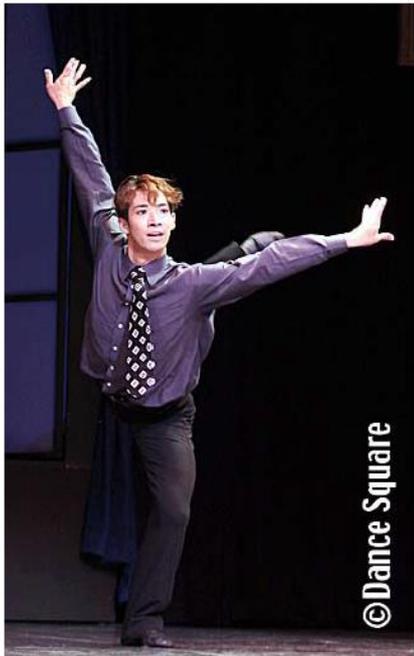


出演は高岸直樹、秋元康臣、浅田良和、池本祥真、細野生、土橋冬夢
の6人で、ピアソラの曲が使われた。幕が開くとアトリエを模したセ

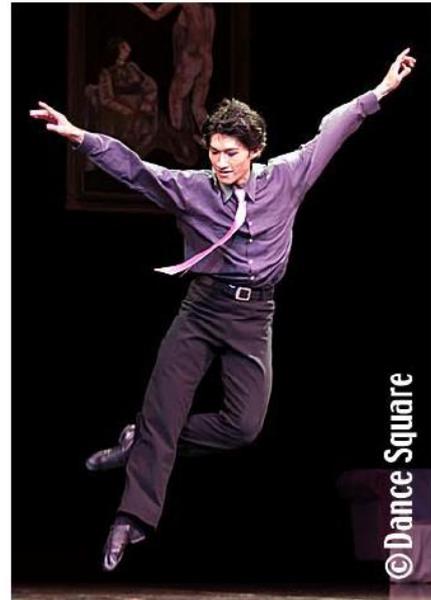
2020/3/8

Dance Square

ットが表れ、高岸のソロが始まる。バンドネオンの音に合わせてシモテからカミテへとステップを踏むなど、軽快な動きだが、時おり肩を落としたり、頭を抱えたりと、何やら苦悩しているようである。



浅田良和



秋元康臣

続いて池本たちが登場。池本、細野、土橋のエネルギッシュなトロワの後に、浅田のキザなソロと、秋



元による酔っ払いのダンスが挿入される。浅田は、持ち前の深いブリエで腰をしっかりと落としたり、空中に高くジャンプしたりと、ダイナミックでひと癖ある男の雰囲気。秋元は千鳥足にも伸びやかさがあり、揺らぎのあるスリリングな踊りを見せた。

前半は高岸の内面にフォーカスされていたが、迫力のあるステップが次から次へと披露されて、舞台は徐々に陽気さを増す。仲間たちに苦悩を訴えていた高岸の機嫌もなお、終盤は和気あいあいと踊る。ラストは『リベルタンゴ』で盛り上がり、『アトリエの情景』に描かれた配置にポーズが決まって幕が降りた。



高岸が一番のベテランだが、照明を浴びて最も若々しいのも高岸だった。“苦悩”の理由は具体的には説明されないが、芸術家になりがちなものとして安易に見過ごすことはできない。印象派のムーヴメントの到来を待たずして普仏戦争で戦死した、バジールへの供養と解釈するのはひねり過ぎだろうか。



2020/3/8

石神井バレエ・アカデミー公演『Triple Bill』
2017.7.4 文京シビック大ホール



Dance Square

3 of 3
 Shakujii Ballet Academy
 Triple Bill

『四季』

音楽/ジュゼッペ・ヴェルディ
 作・振付/山崎敬子



ヴェルディの音楽を使い、冬、春、夏、秋の順に季節が巡る。「冬」は池本を中心に、南雲久美、山口麗子、安藤貴絵、佐藤さやか、児玉海歩、泉有香が、粉雪の精のように踊る。池本のマネージュは、180度開いた脚が、空中で更に伸びるような勢いがあった。



冬

www.dance-square.jp/shm3.html

1/7

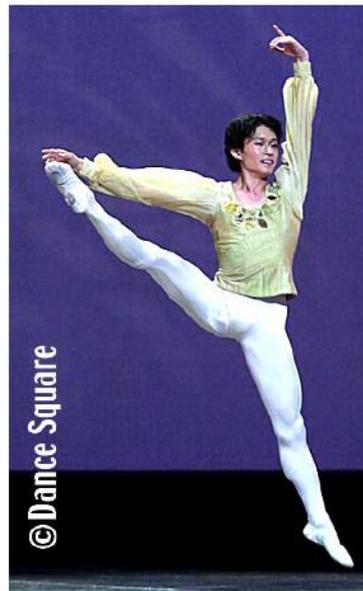


西田佑子、秋元康臣

池本祥真

南雲久美、山口麗子、安藤貴絵、佐藤さやか、児玉海歩、泉 有香

「春」は西田と秋元のグラン・パ・ド・ドゥ。男女が同じタイミングで同じステップを踏む振付に、ストレートな春の歓びが感じられる。直前の幕でコミカルな一面を披露した秋元は、ジャンプの度にしっかりと五番に降りる、本来の秋元らしいノブルな踊り。





「夏」は酒井と浅田による、オフバランスを多用したパ・ド・ドゥ。こちらは男女が会話をするように交互に踊るステップがあり、「春」から繋がる振付としての“展開”が面白い。イブニングドレスのような衣装の酒井の、暑さを表す腕の動きがとりわけ色っぽく、夏の宵のロマンティックな恋模様を描かれた。

夏
酒井はな、浅田良和





秋

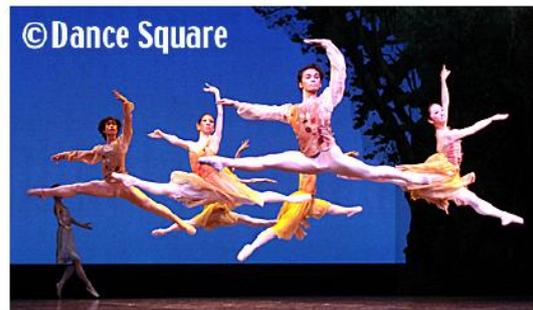
吉田 都、高岸直樹
安藤貴絵、細野 生、土橋冬夢
南雲久美、山口麗子、佐藤さやか
児玉海歩、泉 有香

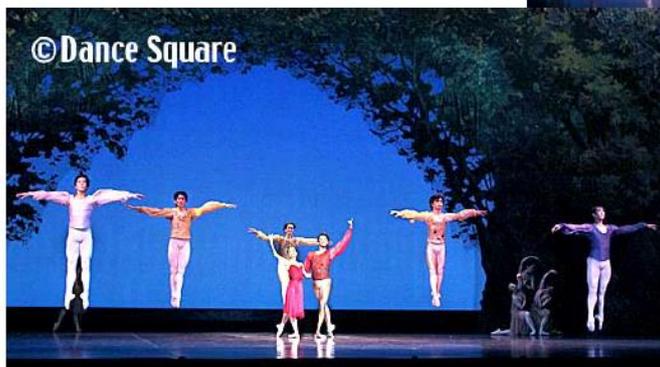




吉田 都、高岸直樹

安藤、細野、土橋を中心とした導入に続き、「秋」には吉田と高岸が登場。高岸の長身を生かした、リフトの多いグラン・バ・ド・ドゥで、華奢な吉田の可愛らしさが引き立った。正しいポジションに瞬時に入る吉田のキレのある踊りは、細かな足先の動き一つ一つにまで行き渡っている。高岸の肩に乗った吉田を中心に、女性陣が大きな円を描いて回るフィナーレは、さながら秋風に舞い上がる、色とりどりの葉を眺めているようであった。





キャストの豪華さだけでなく、それぞれのダンサーの魅力を引き出すことにも気が配られている公演だった。一夜限りだったのは惜しいが、その“一回性”もまた魅力の一つで、トリプルビルを特別なものにしていた。

2017年7月4日所感

すみだ・ゆう= 詩人/舞踊批評家



STAFF
 演出・振付/山崎敬子
 舞台監督/西澤明彦 (遊カンパニー)
 照明/工藤武夫 (舞スタッフ)、アステム (「一枚の絵」)
 衣裳制作/林 なつ子 (工房いち)、グルロ アーブル
 音楽編集/近藤徹志
 音響操作/相馬保之
 事務局/西村光弘
 制作/外崎芳昭
 主催/石神井バレエ・アカデミー

[What's New](#) [Coming soon](#) [Back Number](#) [Top Page](#) [Information](#)

2019年公演

タイトル：《バレリーナ吉田 都からのメッセージ》

日時：2019年1月25日(金) 19:00開演 (18:15開場)

会場：文京シビックホール・大ホール

演出・振付： 山崎 敬子

舞台監督： 西澤 明彦 (遊カンパニー) 照明： 工藤 武夫 (舞スタッフ)

装置： 遊カンパニー 衣裳制作： 林 なつ子 (工房いーち)

音楽編集： 近藤 徹志 音響操作： 相馬 保之

事務局： 西村 光弘 安藤 貴絵

制作： 外崎 芳昭

プログラム・出演者

第1部

《ナイチンゲールのワルツ》

音楽： オスカル・ネトバル 作・振付： 山崎敬子

吉田 都 浅田良和

《We Love Piano》

音楽： エルネスト・ナザレ 作・振付： 山崎敬子

ピアノ演奏： 松川 儒

1. 全員
2. 石井日奈子 野久保奈央 山口麗子 佐藤さやか 児玉海歩 泉 有香 相澤 圭
3. 峰岸千晶
4. 高岸直樹
5. 沖 香菜子
6. 秋元康臣 池本祥真
7. 米沢 唯
8. 峰岸千晶 高岸直樹
9. 全員

第2部

《ドン・キホーテ》よりグラン・パ・ド・ドウ

音楽： レオン・ミンクス 原振付： マリウス・プティパ

米沢 唯 秋元康臣

《ラ・フィユ・マル・ガルデ》よりグラン・パ・ド・ドゥ

音楽： ルートヴィヒ・ヘルテル 原振付： マリウス・プティパ&レフ・イワノフ

沖 香菜子 池本祥真

《エスメラルダ》より

音楽： チェーザレ・プーニ 原振付 ジュール・ペロー

改訂： 山崎敬子

吉田 都 浅田良和

石井日奈子 野久保奈央 山口麗子 相澤 圭

フライヤー

石神井バレエ・アカデミー 公演

バレリーナ 吉田 都からのメッセージ



高岸 直樹
(新国立劇場バレエ団)



米沢 唯
(新国立劇場バレエ団)



秋元 康臣
(東京バレエ団)



沖 香菜子
(東京バレエ団)



浅田 良和
(シンフォニーバレエスタジオ)



峰岸 千晶
(NBAバレエ団)



吉田 都
正業 舞美

バレリーナ 吉田 都からのメッセージ
演出・振付 山崎敬子

2019年 1月25日(金) 18:15開演
文京シビックホール・大ホール

エスメラルダより ナイチンゲールのワルツ
(吉田 都・浅田良和)

ドン・キホーテより
(米沢 唯・秋元康臣)

ラ・フィユ・マル・ガルデより
(沖香菜子・池本祥真)

We Love Piano
—山崎敬子とダンサーたちとの会話—
(高岸直樹・峰岸千晶ほか)

チケット料金

《全席指定》S席	10,800円
A席	8,640円
B席	6,000円

チケット取り扱い 《販売》10月25日(木)10:00から

Confetti ☎0120-240-540 (受付10-18時)
https://www.confetti-web.com

主催：石神井バレエ・アカデミー
〒177-0041 東京都練馬区石神井町2-1-2
http://www.shakujii-ballet.com / Tel.(03)3996-9041



〒113-0033 東京都文京区春日 1-16-21 文京シビックセンター西
●交通アクセス
■東京メトロ丸の内線/内線・南北線(後楽園)駅(直結)
■都営三田線・大江戸線「春日」駅(直結)
http://bunjoyochall.gracens.jp

吉田 都・インタビュー

吉田 都さんの長いダンサー人生において、子どものころから現在までのバレエに対するお気持ちを伺いました。

バレエを習うきっかけと子供時代

幼稚園に通っていた頃、母に連れられて行ったお友達の発表会でバレエに魅了されてしまいました。初めはバレエの衣装やシューズ、そして舞台の上でキラキラ輝く美しさに憧れました。バレエを始めるようになってからはバレエ特有の難しい動きに夢中になりました。とにかく理想のポジションを作りたい、より強いテクニックをつけたいと何時間もの過酷な練習に励みました。

10代の頃

バレエはテクニックだけではなく、と気付かされたのが松山バレエ学校に入学した高校1年生のとき。楽しい雰囲気の中のクラスの中で受けた松山樹子先生の芸術的な指導に大きく影響を受けました。また、当時松山先生と共に、山崎敬子先生、山口優子先生にも踊る楽しさを教えて頂きました。その教えは私の踊りの原点です。本当に感謝しています。

イギリス時代

ローザンヌ国際バレエコンクールでローザンヌ賞を頂いた後、英国ロイヤルバレエ学校に留学しました。留学当初、同級生たちが皆、大人びていて世界が違ってくるように見えました。立っているだけでも美しいダンサー達を前に「ああ、このような人達がまさにバレエを踊る人なのだ」とショックを受けたのです。

学校生活で印象に残っていることは、卒業公演の演目、ブルーパードのパドドゥのリハーサルをマイケル・サムズ先生に見て頂く貴重な機会に、ソロの場面をなかなか踊らせてもらえなかったことです。それは私がバレエのテクニックだけでない、根本的に大切なことが理解できていなかったから。ダンサーは舞台上歩いて出てくる時でさえ、その役柄をまもっていなければならないのですが、当時の私は役柄を理解していたものの、それをどう表現したらよいか解らなかったのです。

卒業後入団したサドラーズ・ウェルズ・(現パーミンガム)ロイヤルバレエでは、膨大な数の公演に自分を見失いそうになっていたとき、当時の芸術監督だったサー・ピーター・ライトが役を次々と与えて下さり、希望を持たせてくれました。それをひとつのきっかけとして、4年後にはプリンシパルになることができました。

プリンシパルとなると、公演は主役の配役、そして初日の翌日に出る新聞の評に左右されるため、当時初日に踊らせて頂くことが多かった私は大きなプレッシャーを感じるようになりました。ロイヤルバレエ団に移籍してからはその思いはますます強くなり、押しつぶされそうになることもありました。そんな辛い本番前、改装前のオペラハウスで使っていたのが名バレリーナのマーゴ・フォンティーンが使っていた家屋でした。同じ鏡前で準備をしていると「初日の不安は誰もが同じよ」と背中を押してもらっているような幸せを感じるようになりました。

ロイヤルバレエ団退団後と帰国後

英国の二つのロイヤルバレエ団で長年踊れたことは私の宝物です。プロのダンサー生活の厳しさ、そして世界各国の舞台に立つ喜びを経験し、たくさんの人と出会えたことは私を成長させてくれました。

2020年9月に新国立劇場 舞踊部門の芸術監督に就任予定です。これまで以上に私の経験を次世代に伝えることに尽力したいと思っています。

山崎 敬子

ご挨拶

本日はお寒いなか、石神井バレエ・アカデミー公演「バレリーナ 吉田 都からのメッセージ」にお越し頂きありがとうございます。

バレエが上手で、稽古が大好きな、しかしごくごく普通の日本の少女だった吉田 都さんは、ローザンヌ国際バレエコンクールでローザンヌ賞を受け、イギリスのロイヤルバレエ学校に入学しました。その後、彼女は、類まれなテクニックを習得しつつも更なる高みを目指す姿勢、内面に秘めた情熱をサー・ピーター・ライトに認められ、サドラーズ・ウェルズ・ロイヤルバレエ団(現パーミンガム・ロイヤルバレエ団)に入団します。コールド・バレエから、ソリスト、プリマへと昇進してゆき、役がつつぎと与えられていた最中、日本人として初めてロイヤルバレエ団にプリマとして迎え入れられました。様々な演目で主役をこなし、「これぞロイヤル・スタイル」と絶賛されるまでに至りました。ロイヤルバレエ団を退団し帰国後はダンサーとして活躍をつづけながら後進の育成にも力を注ぎ、今年の8月にはダンサーとしての最後の舞台を務められます。

都さんは、パーミンガム時代とロイヤルバレエ団時代とでプリマ・バレリーナを22年間務められました。その間の幾多の試練を、自らの情熱、努力、感性、信頼できる人々に巡り合えた人間性で乗り越えられて来たのだと思います。今後はその力を日本のバレエ界の発展のためにおおいに尽くされるものと確信しております。

本公演を通じて「吉田 都さんのバレエの精神」をご覧いただき、ご覧いただいた全てから彼女の雄弁な「メッセージ」を受け取って頂ければ、演出・振付の私の無上の喜びでございます。本日の公演の趣旨に賛同して、様々なバレエ団に所属される素晴らしいダンサーのみなさんが快く出演して下さることになりました。さらには、実績のあるピアニスト松川さんも出演を快諾してくださいました。たいへんに嬉しいことです。演出・振付と出演者一同、力を合わせて「バレリーナ 吉田 都のメッセージ」を皆様にお届けいたします。

吉田 都

Miyako YOKOTA



東京都生まれ。1983年ローザンヌ国際バレエコンクールでローザンヌ賞受賞後、英国ロイヤルバレエスクールに留学。1984年現バーミンガムロイヤルバレエ団に入団。4年後にプリンシパルに昇格。1995年英国ロイヤルバレエ団に移籍。22年間にわたり最高位であるプリンシパルとして世界の頂点を極め「ロイヤルバレエの至宝」と称された。現在はフリーのバレリーナとして舞台上に立ち続ける傍ら後進の育成にも力を注ぐ。50歳を機に「バレリーナ 踊り続ける理由」を河出書房から出版。紫綬褒章、大英帝国勲章(OBE)など受賞歴多数。2017年文化功労者に選出された。2018年新国立劇場舞踊芸術参与に就任。

米沢 唯(新国立劇場バレエ団) *Yui YABUZAKI*



愛知県出身。塚本洋子バレエスタジオで学ぶ。2006年に渡米しサンノゼバレエ団に入団。10年にソリストとして新国立劇場バレエ団に入団した。ピントレー『パゴダの王子』で初主役を務め、『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『ドン・キホーテ』『ジゼル』『火の鳥』ほか数々の作品で主役を踊っている。13年プリンシパルに昇格。全国舞踊コンクールジュニアの部第1位、04年ヴァルナ国際バレエコンクールジュニアの部第1位、05年世界バレエ&モダンダンスコンクール第3位、06年USAジャクソン国際バレエコンクール・シニアの部第3位など国内外のコンクールでの受賞歴も多い。14年中川鋭之助賞。17年芸術選奨文部科学大臣新人賞。18年舞踊批評家協会新人賞受賞。新国立劇場バレエ団・プリンシパル。

沖 香菜子(東京バレエ団)

Kanako OGI



文化庁新進芸術家の海外研修制度にてモスクワ舞踊学校に留学。現在、チャイコフスキー記念東京バレエ団に所属。『ラ・シルフィード』『ドン・キホーテ』『くるみ割り人形』『ロミオとジュリエット』『子どものための眠れる森の美女』にて主演。

峰岸千晶(NBAバレエ団) *Chiaki MIZUKAWA*



6歳よりクボバレエアカデミーにてバレエを始め、久保栄治、陽子に師事。また、特別講師として、ナディア・チホーワ、マーティン・フリードマンより、ワガノワメソッドを学ぶ。彩の国芸術劇場「くるみ割り人形」全幕(江川明振付)では、クララ役で出演。米国コロラドバレエ団にて1年間研修をし、マーティン・フリードマンに師事。「シンデレラ」、「くるみ割り人形」、「白鳥の湖」、「スターズアンドストライプス」(バラシン振付)等、数多くの舞台に出演。帰国後NBAバレエ団に入団する。

高岸 直樹

Naoki T. TAKAGISHI



86年東京バレエ団入団。87年ベジャールの「ザ・カブキ」において、弱冠21歳で由良之助に抜擢され一躍話題となり、あらゆるレパートリーで主役を演じる。ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ベルリン国立歌劇場、ボリショイ劇場、マリンスキー劇場など海外でも活躍。ジョルジュ・ドンの代わりに踊った「ボレロ」ではカーテンコールが25分という大成功を収めた。91年にはシルヴィ・ギエムの相手役として「白鳥の湖」を踊り、オーストラリア・バレエ団に3か月間客演。その他ベルリンにて「マラーホフ&フレンズ」、「オーストラリア・バレエ団50周年記念ガラ」、「月に寄せる七つの俳句」のハンブルク・バレエ初演、フィレンツェ歌劇場で東日本大震災復興支援公演など客演多数。2015年東京バレエ団を退団し、高岸直樹ダンスアトリエ設立。

秋元 康臣(東京バレエ団)

Yasuomi AKIYAMA



3歳よりバレエを始める。2000年、12歳でボリショイ・バレエ学校に留学。06年18歳で同校を卒業。05年モスクワ国際バレエコンクールでファイナリスト、06年タンツオリンピ3位。14年ベルミ国際バレエコンクール「アラベスク」で銀賞を受賞。国内のカンパニーを経て、チェリヤピンスク・バレエに入団。プリシバルとして活躍する。15年夏、東京バレエ団にプリンシバルとして入団。

浅田 良和(シンフォニーバレエスタジオ)

Yoshikazu ASHIDA



宮本登美、山内貴雄、小柴葉帆に師事。2002年東京新聞全国舞踊コンクールバレエ2部第1位。2004年ジャパングランプリ ジュニアA第1位金賞を受賞。2005年-2006年英国ロイヤル・バレエスクールへ留学。2006年ユース・アメリカ・グランプリ日本予選シニア第1位。2007年NBA全国バレエコンクール高校生部第1位、ユースアメリカグランプリニューヨークファイナル男性シニア第2位を受賞。同コンクールでスカラシップを獲得し、ウィーン国立歌劇場バレエ団研修生となる。帰国後、Kバレエカンパニーにソリストとして入団。出演作は「白鳥の湖」、「くるみ割り人形」、「シンデレラ」、「シンフォニー・イン・C」、「ロミオとジュリエット」、「海賊」など。退団後、武蔵野シティバレエ定期公演、日本バレエ協会公演、都民芸術フェスティバル公演などで主役を演じるほか、スターダンサーズバレエ団にも主演として客演。

池本 祥真(東京バレエ団)

Shoma IKEMOTO



5歳よりバレエを始める。2005年ボリショイ・バレエ学校に入学。2007年第17回全国バレエコンクールin nagoya男子ジュニアB部門第1位。2008年国立バレエ・モスクワにソリストとして入団。10年ベルミ州国際オープン・バレエコンクール金賞、「岩田守弘と日本のバレエスターたち」に出演。2010年2月、Kバレエカンパニーに入団。2015年8月ファースト・ソリストに昇格。主な出演作は、「くるみ割り人形」のくるみ割り人形/王子/雪の王、「ロミオとジュリエット」のロミオ/マキューシオ、「ラ・バヤデル」のソロル/ブロンズ・アイドル、「シンデレラ」の王子/2人の道化師/王子の友人、「海賊」のアリ、「白鳥の湖」のペノ/パド・トロワ、「ジゼル」のパド・シス/ペザントなど。2018年東京バレエ団に入団。



石井 日奈子
(東京シティバレエ団)
Hinako IWANO



野久保 奈央
(NBAバレエ団)
Nao NISHIKUBO



山口 麗子
Rieko Y. Y. U. YAMAGUCHI



佐藤 さやか
Sayaka SAITO



児玉 海歩
Umi KOIWA



泉 有香
Kaori IZUMI



相澤 圭
Kaori AIZAWA

松川 儒(玉川大学芸術学部)

Manabu MATSUKAWA



東京藝術大学附属音楽高校を経て、東京藝術大学音楽学部ピアノ科を卒業。ドイツ・カールスルーエ国立音楽大学大学院を修了。芸大在学中より活動を開始し、ソロ・ピアニストとして、また貴重なアンサンブル・ピアニストとして、今日まで多数の著名演奏家との共演を続けている。宮本亜門氏演出のオペラにおいても副指揮者として参加。朝日新聞社主催「ヴォルフ歌曲全曲演奏会・全12回」に於いて企画者&ピアニストとして高評価を得て、平成19年度文化庁芸術祭「大賞」を受賞。現在、玉川大学芸術学部准教授、洗足学園音楽大学非常勤講師、愛知県立芸術大学非常勤講師を務めている。

Shakujū Ballet Academy

石神井バレエ・アカデミー 公演
バレリーナ 吉田 都からのメッセージ

年3月8日 第3種郵便物認可 ©毎日新聞社2019 (日刊)



新毎日

夕刊

2月4日(月)

2019年(平成31年)

吉田都からのメッセージ

評 バレエ

つま先が語るもの



石神井バレエ・アカデミー(東京)の舞台は「吉田都からのメッセージ」と銘打った小品集。英ロイヤルの至宝と称されたバレエの精華を昇せよと、吉田の恩師である同団主宰の山崎敬子・外崎芳昭が企画した。秋元康臣ら今を盛り of 精鋭たちも、所属の枠を超えて集結。客席に

は、バレエを学ぶ少女の姿も目立った。つまり、4世代が一章に生きる公演。その中心で、吉田が圧倒的な輝きを放った。

出演は浅田長和と組んでの2作。山崎の心利いた振り付けによる「ナイチンゲールのワルツ」に写真家・瀬戸秀美撮影では小鳥のような姿ら

しさを、古典の「エスメラルダ」では、じょうじょうたる娘の嘆きを。特に後者で、パ・ド・アレ(つま先歩行)の雄弁さに目を奪われた。面の足先を細かく刻む移動は、基本中の基本。超越技巧では決してないが、吉田が右へ左へ滑るようにこれを繰り返すと、空気の色が差すようだ。全身を厳しく制御し心は歌ることによってしか現

れない艶。早く懐をたたえ、今なお比類なきバレエリーナである。

東京バレエ団の沖香菜子、NBAバレエ団の峰岸千晶、新国立劇場バレエ団の米沢唯ら看板がそろい、新作と古典で華を競った。個性と所属団体のスタイルが顕著なうちにも、大先輩と同じ舞台に立つ喜びと誇りが共通してはほほ羨ましい。めったに見られない顔合わせに、新しい時代の風が感じられた。

吉田は来年、新国立劇場舞踊芸術監督の座に就く。大任を前に、この8月限りで現役を退くことが明らかになった。余力が惜まれるが、いちぎな吉田らしい決断といえるだろう。世代差を超え枠を払い、バレエ界の発展にまい進してほしい。【斎藤希生子】東京・文京シビックホールで1月26日

週刊 オン★ステージ 新聞

THE PERFORMING ARTS JOURNAL

2019年 3月 8日 第2200号 (週刊・毎週金曜日発行) 昭和46年 6月 3日 第三種郵便物認可 定価150円 (税込)

バレリーナ吉田都からのメッセージ

石神井バレエ・アカデミー公演 動きの流れの美しさを強調



『ナイチンゲールのフルツ』 ©瀬戸秀美

外崎芳昭・山崎敬子が主宰する石神井バレエ・アカデミーが、二〇〇二年の第一回から数えて第十回目となる公演を《バレリーナ吉田都から

のメッセージ』のタイトルで行った。彼女には、一四年に『眠れる森の美女』第三幕を齊藤拓と、一七年に『パ・ド・カトル』を酒井はな、西田佑子、沖香菜子と踊った実績があるのだ。吉田は、まず『ナイチンゲールのフルツ』(山崎敬子振付)を浅田良和と踊りオープニングを飾った。その踊りは、部分的にテクニクを誇示するものではなく、全体のコントロールで観客の心の奥底に訴えてくるタイプ。山崎の振付は、そんな吉田の踊りの質にふさわしく動きの流れの美しさを強調したものだ。次の『We Love Piano』も山崎の振付。ショパンなどによる組曲風の構成を高岸直樹、米沢唯、沖香菜子、峰岸千晶、秋元康臣、池本祥真ら豪華ゲスト陣が多彩に競い合った(ピアノ演奏は松川儒)。山崎の振付はこれまでにもバレエらしさに徹しており、歴史的に完成されたシステムの微妙な連鎖をたくみに使いこなした。

後半は、米沢唯と秋元康臣という誰もが見たい組み合わせによる『ドン・キホーテ』のグラン・パ・ド・ドゥから。テクニシャン同士の衝撃が舞台上で爽快にさく裂した。次の『ラ・フィエユ・マル・ガルド』パ・ド・ドゥは沖香菜子と池本祥真が踊った。彼ら

は若い男女の出会いを優雅に見せ、バレエの別の楽しさを観客に示した。そして最後は、吉田と浅田の『エスメラルダ』だった。吉田はタンバリンを持ったジプシー四人をバックに、傷心のエスメラルダをドラマチックに演じ、バレエの魅力の広がり強く印

象付けた。二〇年九月に新国立劇場バレエ団芸術監督に就任する吉田は、この八月の現役引退を表明している。その田熟(じ)りをしっかりと記憶に留めておこう。(二月二十五日、文京シビックホール)

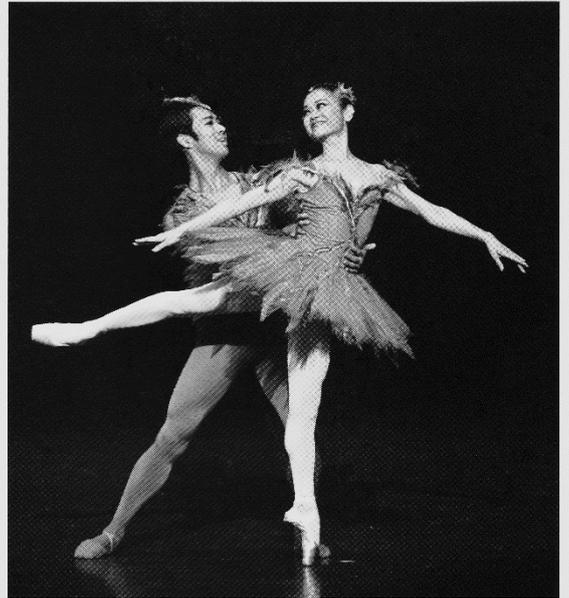
山野 博大

石神井バレエ・アカデミー「バレリーナ吉田都からのメッセージ」



1月25日/文京シビックホール
大ホール

演出・振付：山崎敬子
出演：「ナイチンゲールのワルツ」
吉田都&浅田良和、「We Love
Piano」高岸直樹、峰岸千晶、松
川倫（ピアノ）ほか、「ドン・キホー
テ」米沢唯&秋元康臣、「ラ・フィ
ユ・マル・ガルテ」沖香菜子&池
本祥真、「エスメラルダ」吉田都
&浅田良和 ほか



（左上から時計回りに）「エスメラルダ」吉田都
「ナイチンゲールのワルツ」吉田都、浅田良和
「ドン・キホーテ」米沢唯、秋元康臣
Photos ©Hidemi Seto

バレエ界の「一等星、 比類ない舞

吉田都という不世出のプリマダが、
いかにして世界を魅了してきたのか。
本公演は、その答えを細大漏らさず
披瀝していた。

開幕、山崎敬子振付『ナイチン
ゲールのワルツ』。さすがが美しい森
の息吹に満ちるなか、ステージ中央
で徐々にスポットを浴びる可憐な鳥
の化身。吉田の存在自体が「至宝」
と謳われる理由が、この瞬間のボー
ズに表われている。さらに音符が躍
動し始めるや、全身で奏でられる理
想のライン。澄みわたったさえずり
を体現するアームス、木管の響きに

沿って、ゆるりと運ぶシエネ。いま
さら、の感は否めない言い回しでは
あるものの、その軽快さ、なめらか
さは文字どおり比類がない。まるで
微風にそよぐ羽根のごとし。何やら、
尋常ならざるものに触れた……。見
る者にそんな感慨を抱かせ、夢見心
地な陶酔感へと導いてゆく。繊細で
さり気ない一つひとつの所作から生
まれる、たとえようもない品格の光
度は、バレエ界を照らし続けた一等
星そのものであった。

吉田のパートナーを務めた浅田
良和は、『眠れる森の美女』の青い
鳥を思わせる、端正な跳躍と身のこ
なし。わけても着地音がほとんど聞
こえないジャンプは、相変わらず見
事。彼もまた、ダンス・クラシック

の粹をきわめつつある有数の踊り手
である。

美しいグリーンの衣裳を含め、こ
のペアの魅力を最大限に引き出した
本作の功績は、特筆すべきである。
なお両者は、ほかに公演を締めく
くる『エスメラルダ』（ジュール・ペ
ロ―原振付/山崎改訂）も、四人の
ダンサー（石井日奈子・野久保奈央・
山口麗子・相澤圭）を率いてこのう
えもなくしつとりと舞い納めた。

いっぽう、豪華なゲスト陣のうち、
目立った活躍を見せた筆頭が高岸直
樹である。『We Love Piano』（山崎
振付）のソロでは、見る者を瞠目さ
せる高速の回転と切れの良さ。さら
にNBAバレエ団の峰岸千晶との
パ・ド・ドゥでは、元来、筋のない抒
情詩に含蓄あるストーリーを紡ぎ出
し、さすがの表現力と唸らせた。

同作では東京バレエ団の秋元康臣
と池本祥真も、しなやかにしてパワ
フルなデュエットを展開。また秋元
は、新国立劇場バレエ団の米沢唯を
相手に、『ドン・キホーテ』、池本は東
京バレエ団の沖香菜子と、『ラ・フィ
ユ・マル・ガルテ』のグラン・パ・ド・
ドゥをそれぞれ披露、会場を華やか
に盛り上げていた。

総じて吉田のキャリアを讃えると
同時に、公演タイトルどおり、後進
へ向けた力強く温かいメッセージが、
雄弁に伝わってくる内容であった。

吉田 裕
Hiroshi Yoshida

文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（派遣事業）」

埼玉県羽生市立三田ヶ谷小学校 学校公演

日時：2013年2月8日（金）14：00開演

会場：羽生市立三田ヶ谷小学校体育館（〒348-0004 埼玉県羽生市大字弥勒 87）

観客：全校生徒 120名、教職員、生徒の保護者、地域の住民

● 公演の内容

「バレエを観たことのない小学生を対象にした公演」ということを念頭に内容を企画しました。

《第1部》では、バレエについてデモンストレーション付きで解説を致します。ダンサーのレッスン風景を見せる部分では、三田ヶ谷小学校の児童でバレエを習っている子どもたち数名にもレッスンに加わってもらいます。

《第2部》では、実際のバレエを解説付きで鑑賞してもらいます。子どもたちの耳馴染みのクラシック音楽に私たちが新たに振付けたバレエとバレエの名作からの名場面を披露します。

プログラム

《第1部》 解説「バレエとは？」（解説者：山崎敬子）

- バレエの歴史
- バレエのレッスン風景（バレエ・ダンサーは普段どのようなレッスンをしているのか）
- マイム（バレエ作品に登場するマイムの解説）

《第2部》 作品集（解説者：山崎敬子）

1. 『アマリリス』 曲：ギース
2. 『ワルツィング・キャット』 曲：アンダーソン
3. 『口笛吹きと子犬』 曲：プライヤー
4. 『そりすべり』 曲：アンダーソン
5. 『くるみ割り人形』より 「トレパック」 曲：チャイコフスキー
6. 『白鳥の湖』より 「白鳥たちの踊り」 & 「オデット姫のソロ」 曲：チャイコフスキー
7. 『ライモンダ』より 曲：グラズノフ
8. 『海賊』より 「グラン・バ・ド・ドウ」 曲：アダン

出演者・スタッフ

総監督：外崎芳昭

演出・振付：山崎敬子

出演：南雲久美 山口麗子 佐藤さやか 高野真由子 児玉海歩 佐藤萌子 豊口あゆみ 近藤徹志
牧野悟士

茨城県つくば市立竹園東小学校 学校公演

日時：2014年1月16日（木）

午前の部（1～3年生）10：50～12：20 午後の部（4～6年生）13：30～15：00

会場：茨城県つくば市立竹園東小学校体育館（〒305-0032 茨城県つくば市竹園3丁目13）

観客：全校生徒、教職員、生徒の保護者

● 公演の内容

「バレエを観たことのない小学生を対象にした公演」ということを念頭に内容を企画しました。

《第1部》では、バレエについてデモンストレーション付きで解説を致します。バレエの歴史をお話しするとともに、ダンサーはどんな練習を日ごろしているのかレッスン風景をお見せします。

《第2部》では、実際のバレエを解説付きで鑑賞してもらいます。クラシックバレエの名作からの名場面を披露します。

プログラム

《第1部》 解説者：山崎敬子

- バレエの歴史
- バレエのレッスン風景（バレエ・ダンサーは普段どのようなレッスンをしているのか）
- マイム（バレエ作品に登場するマイムの解説）

《第2部》 作品集（解説者：山崎敬子）

1. 『パリの喜び』より 曲：オッフェンバック
2. 『白鳥の湖』より 曲：チャイコフスキー
第2幕「オデットの踊り」、第3幕「オディールの踊り」
3. 『コッペリア』より 曲：ドリーブ 第1幕「スワニルダの踊り」
4. 『海賊』より 曲：アダン グラン・パ・ド・ドウ

出演者・スタッフ

総監督：外崎芳昭

演出・振付：山崎敬子

出演：南雲久美 山口麗子 佐藤さやか 児玉海歩 佐藤萌子 豊口あゆみ 青木淳一

依頼公演

2016年：飛騨市文化交流センター指定管理者NPO法人ひだ文化村

公演タイトル： はじめてのバレエ～くるみ割り人形より

日時： 2016年5月15日(日) 12:30 開場 /13:00 開演

会場： 飛騨市文化交流センター スピリットガーデンホール

公演主催： 飛騨市文化交流センター指定管理者NPO法人ひだ文化村

プログラム

《第1部》 バレリーナの1日（解説者：山崎敬子）

1. レッスン風景

南雲久美・山口麗子・佐藤さやか・安藤貴絵・児玉海歩・泉有香・石井日奈子・坂爪智来・石田亮一・牧野悟士

2. 『パリの炎』より 牧野悟士

3. 『ドン・キホーテ』よりキトリのヴァリアシオン 石井日奈子

4. 『レ・シルフィード』よりプレリュード 安藤貴絵

5. 『海賊』よりグラン・パ・ド・ドウ 佐藤さやか・坂爪智来

《第2部》 『くるみ割り人形』第2幕（お菓子の国から各国の踊り）

1. スペインの踊り 児玉海歩・泉有加

2. アラビアの踊り 南雲久美・坂爪智来

3. チャイナの踊り 牧野悟士

4. ロシアの踊り 児玉海歩・佐藤さやか・安藤貴絵・泉有香

5. フランスの踊り 石井日奈子

6. グラン・パ・ド・ドウ（お菓子の国の女王・金平糖と王子の踊り） 山口麗子・石田亮一

出演者・スタッフ

総監督：外崎芳昭

演出・振付：山崎敬子

出演：南雲久美 山口麗子 佐藤さやか 児玉海歩 泉有香 石井日奈子 坂爪智来 石田亮一
牧野悟 安藤貴絵

公演フライヤー

はじめてのバレエ

くるみ割り人形

THE NUTCRACKER

第1部 “バレリーナの1日” 練習風景など
バレエをレクチャー形式でご紹介

第2部 バレエ「くるみ割り人形」より抜粋

バレエは見たことが無い、よく分からない、という方もご安心ください。

舞台は冬のドイツ、クリスマス・イブの夜、プレゼントにもらったくるみ割り人形の魔法で眠りに付いた少女クララは夢を見ます。
大あばれするネズミとくるみ割り人形の戦い、素敵女王王子、雪の国や海怪の国、世界中のお菓子の精が集まっている国、そして美しい舞の数々……
「白鳥の湖」に続く「美少女」に引き続き、チコファニー三大バレエとして世界中で最も多く上演されている「くるみ割り人形」。



これからバレエを楽しまれる皆さまにこそ観ていただきたい、
夢のようなバレエの世界へご案内いたします。

2016.5.15.SUN

Open 12:30 / Start 13:00
飛騨市文化交流センター スピリットガーデンホール

全席自由 一般2,376円 ・会員2,160円 ・高校生以下1,080円
・お得な親子チケット (2枚1組) 3,024円
※高校生以下のお子様と、その保護者の方1名

チケット発売…3/13(日) 10:00 ~各プレイガイド一斉

プレイ ■飛騨市文化交流センター / 0577-73-0180(月曜休館) ■船津座 / 0578-83-0151(火曜休館)
ガイド ■岡山市民文化会館 / 0577-33-8333 ■下呂交流会館 / 0576-25-5000(水曜休館)

お問い合わせ 飛騨市文化交流センター 〒509-4221 岐阜県飛騨市古川町若宮 2-1-63(JR 飛騨吉川駅より徒歩 2分)
TEL.0577-73-0180 FAX.0577-73-0185

【主催】 飛騨市文化交流センター指定管理者 NPO 法人ひだ文化村 【制作】 石神井バレエ・アカデミー
【後援】 飛騨市教育委員会 / 全井クラシックバレエスクール / エスポワールバレエアカデミー / エムドラ・バレエスタジオ
新穂愛子 創作バレエ研究所 / プランバレエスタジオ / ミルローズバレエスタジオ (順不同、敬称略)



第1部 舞台写真

第2部 舞台写真

